

～文部科学省研究指定事業～

新時代に対応した高校教育改革推進事業

研究中間報告書

平成20年3月

山梨県立甲府工業高等学校

目 次

I 現状

- ① 進路状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ② 資格取得状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ③ 学科・部活動の活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

II 具体的な取り組み

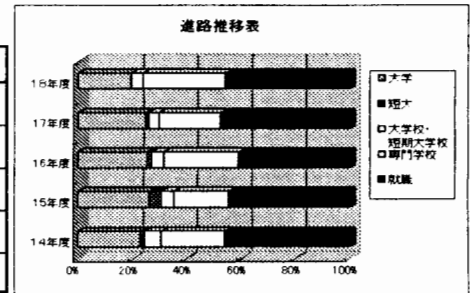
- ① 教育課程の開発・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ② 高校入試への対応・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
- ③ 学校組織の改編・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- ④ 自己実現のための3年間を通したキャリアプランの開発・・・・・・・・・・ 11
- ⑤ インターンシップの実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15
- ⑥ 校内研修会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
- ⑦ モデル校視察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
- ⑧ 大学訪問・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
- ⑨ 平成19年度学校指定事業（支援事業）
 - ・ 新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（文部科学省）・・・・ 39
 - ・ 特色ある高校づくり支援事業（高校教育課）・・・・・・・・・・ 43
 - ・ 高校生インターンシップ推進事業（高校教育課）・・・・・・・・・・ 46
 - ・ サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（文部科学省）・・・・ 48
 - ・ 国語力向上実践事業（高校教育課）・・・・・・・・・・ 49
 - ・ ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業・・・・ 50

（文部科学省・経済産業省）

I-① 進路状況

過去5年間の進路状況(平成14年度～平成18年度)

	大学	短大	大学校・ 短期大学校	専門学校	進学合計	公務員	就職	卒業生数
平成14年度	58 21.0%	5 1.8%	16 5.8%	60 21.7%	139 50.4%	7 2.5%	112 40.6%	276
平成15年度	67 25.4%	11 4.2%	12 4.5%	52 19.7%	142 53.8%	7 2.7%	107 40.5%	264
平成16年度	62 25.1%	4 1.6%	11 4.5%	68 27.5%	145 58.7%	2 0.8%	100 40.5%	247
平成17年度	61 23.5%	3 1.2%	9 3.5%	56 21.5%	129 49.6%	5 1.9%	119 45.8%	260
平成18年度	50 19.0%	1 0.4%	11 4.2%	79 30.0%	141 53.6%	4 1.5%	117 44.5%	263



平成14年度 進路状況

	平成14年度 進路状況															
	進 学								進学合計	就 職						
	大 学				短 大					大学校 短期大学校	専修学校 種彦学校等	学校紹介		自己・縁故等		
国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計			県内	県外	公務員	縁故等			
機械科	1	0	9	10	0	0	0	0	3	22	35	28	1	3	5	37
電気科	0	0	18	18	0	0	0	0	5	13	36	32 (1)	5	1	2	40 (1)
電子科	2	0	10	12	0	0	0	0	5	7 (1)	24	10 (1)	1	2	0	13 (1)
建築科	2	1	8	11	0	2 (2)	3 (2)	5 (4)	2	9 (4)	27 (4)	4 (3)	0	0	6 (3)	10 (6)
土木科	0	0	7	7	0	0	0	0	1	9	17	11	2	1	5	19
合計	5	1	52	58	0	2 (2)	3 (2)	5 (4)	16	60 (4)	139 (4)	85 (5)	9	7	18 (3)	119 (8)

()内は女子の内数

平成15年度 進路状況

	進 学										進学合計	就 職				就職合計
	大 学				短 大				大学校 短期大学校	専修学校 様子学校等		学校紹介		自己・縁故等		
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計				県内	県外	公務員	縁故等	
機械科	0	0	17	17	0	0	3	3	4	14	38	24 (1)	1	5	5	35 (1)
電気科	1	0	15	16	0	1	0	1	3	15	35 (1)	34	2	2	1	39 (1)
電子科	1	0	18	19	0	1	0	1	3	5	28 (2)	10 (1)	0	0	1	11 (1)
建築科	0	1	8	9	0	2	3	5	1	7	22 (1)	9 (3)	0	0	3 (1)	12 (4)
土木科	1	0	5	6	0	0	1	1	1	11	19 (1)	10	1	1	5	17
合計	3	1	63	67	0	4	7	11	12	52	142 (11)	87 (5)	4	8	15 (1)	114 (6)

()内は女子の内数

平成16年度 進路状況

	平成16年度 進路状況								大 学 校 短期大学校	専修学校 各種学校等	進学合計	就 職				就職合計
	大 学				短 大							学校紹介		自己縁故等		
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計				県内	県外	公務員	縁故等	
機械科	0	0	19	19	0	0	2	2	2	18	41	22	2	0	3	27
電気科	0	0	16	16	0	0	0	0	3	12	31	34 (1)	1	0	1	36 (1)
電子科	1	0	7	8	0	0	0	0	5	10 (1)	23 (1)	6 (1)	2	3	1 (1)	12 (2)
建築科	0	0	12 (2)	12 (2)	0	0	2	2	1	14 (3)	29 (5)	5 (2)	2	1	0	8 (2)
土木科	0	0	7	7	0	0	0	0	0	14 (1)	21 (1)	13	3	0	3	19
合計	1	0	61 (2)	62 (2)	0	0	4	4	11	68 (5)	145 (7)	80 (4)	10	4	8 (1)	102 (5)

()内は女子の内数

平成17年度 進路状況

	平成17年度 進路状況										進学合計	就職				就職合計
	学								大学校 短期大学校	専修学校 各種学校等		学校紹介			公務員 縁故等	
	大学				短大							県内		県外		
	国立	公立	私立	計	国立	公立	私立	計				公務員	縁故等			
機械科	0	0	11	11	0	0	0	0	2	24 (1)	37 (1)			25	2	4
電気科	0	0	13	13	0	0	0	0	1	5 (1)	19 (1)	42	3		3	48
電子科	2	0	17 (1)	19 (1)	0	0	1	1	3	5	28 (1)	10	1	1		12
建築科	1 (1)	0	12 (4)	13 (5)	0	0	2 (2)	2 (2)	1	12 (4)	28 (11)	6 (2)	1		4 (1)	11 (3)
土木科	0	0	5	5	0	0	0	0	1	12 (1)	18 (1)	10 (1)	3		6 (1)	19 (2)
合計	3 (1)	0	58 (5)	61 (6)	0	0	3 (2)	3 (2)	8	58 (7)	130 (15)	93 (3)	10	5	16 (2)	124 (5)

()内は女子の内数

平成18年度 進路状況

	平成18年度 進路状況										進学合計	就職				就職合計
	進 学								就 職							
	大 学				短 大				大 学 校	専 修 学 校		学 校 紹 介		自 己 縁 故 等		
	国 立	公 立	私 立	計	国 立	公 立	私 立	計	短 期 大 学 校	各 種 学 校 等		県 内	県 外	公 務 員 ・ 公 社	縁 故 等	
機械科	0	0	7	7	0	0	0	0	5	27	39	33	4	1	2	40
電気科	0	0	10	10	0	1	0	1	0	10	21	39	4	2	4	49
電子科	1	0	14	15	0	0	0	0	5	12 (1)	32 (1)	5	1			6
建築科	1	1	8	10	0	0	0	0	1	16 (1)	27 (1)	8 (4)	1 (1)	1	1 (1)	11 (6)
土木科	0	0	8	8	0	0	0	0	0	14	22	9	4		2	15
合計	2	1	47	50	0	1	0	1	11	79 (2)	141 (2)	94 (4)	14	4	9 (1)	121 (6)

()内は女子の内数

I-② 資格取得状況

資格取得者数

分野	資格名	平成17年度		平成18年度		平成19年度
		合計	924	合計	916	合計
関製 係図	基礎製図検定		60		55	62
	製図技能検定	A級	18		25	
機 械 ・ 関 工 業 技 術 ・ 電 気 ・ 電 子 技 術		B級	33		31	
	ガス溶接技能講習修了証		93		87	88
	アーク溶接技能講習修了証		90		96	79
	小規模ボイラー 取扱講習修了証		109		101	67
	2級ボイラー実技講習修了		2			1
	ボイラー技士 2級		1			
		1類	4		1	8
		2類	6		1	3
		3類	3		4	3
	危険物取扱者 乙種	4類	25		21	27
		5類	1		1	3
		6類	1		2	6
	危険物取扱者 丙種		39		21	1
	旋盤検定中級		62		59	52
	旋盤検定3級		6		6	6
	機械検査3級		5		11	3
	金属熱処理3級		13		13	20
	第3種電気主任技術者					
	第1種電気工事士		22		23	20
	第2種電気工事士		63		65	73
電 気 ・ 電 子 技 術	電気工事施工技術者		7			3
		デジタル1種	1			
		デジタル2種				
		デジタル3種	5		1	5
		アナログ1種				
		アナログ2種				
		アナログ3種				
	アマチュア無線技士	2級	1			
		3級	1		5	
		4級	1			
	陸上特殊無線技士	2級	9		5	7
	ラジオ音響技能検定	4級	8			
	デジタル技術検定	4級	11			1
		1級				1
		2級				5
情 報 ・ 計 算 技 術 関 係	計算技術検定	3級	34		35	38
		4級				
	情報技術検定	1級				
		2級	28		23	29
		3級	75		143	
		4級				
	画像情報技能 検定CG部門	2級				
		3級	5		5	
	画像情報技能検定画像処理部門	2級				
		3級			1	
	画像情報技能検定マルチメディア部門	2級				
		3級	4		2	5
	初級システムアドミニストレータ		2		1	
	パソコン検定4級ベーシック		3		3	
	MOS検定					
建 築 土 木 測 量 関 係	インターネット実務検定 2級					
	ワープロ検定 3級					
	建築施工管理技術検定(建築施工技術者)	2級	7		10	4
	測量士補		2		1	5
	土木施工管理技術検定(土木施工技術者)		31		4	9
	初級CAD		8		14	
	車両系建設機械		5		3	2
	小型フォークリフト(1t未満)					1
	高所作業車					
	小型移動式クレーン					4
	玉掛け					
	福祉住環境コーディネーター	2級				1
		3級			3	3
		2級			4	3
		準2級	1		14	20
国 語	日本漢字能力検定	3級			4	5
		準2級				
		3級				
英 語	実用英語技術検定	準2級			1	1
		3級				
		1級				
家 庭	被服製作	2級				
		3級			1	
		4級	5		4	
	食物調理	1級				
		2級				
		3級	7		32	
		4級	18		63	

ジュニアマイスター顕彰制度 受賞者数(過去5年間実績)

	平成17年度		平成18年度		平成19年度
	合計	19	合計	12	合計 28
金 賞		6		4	12
銀 賞		13		8	16

I-③ 学科・部活動の活動状況

平成19年度 各部・学芸局・学科の活動実績

関東大会

種 目	実 績
陸上駅伝	入賞者なし
弓 道	予選敗退
自 転 車	総合3位
柔 道	男子:2回戦敗退 女子:ベスト16(優秀校表彰)
新 体 操	男子団体5位 男子個人総合5位
ボクシング	モスキート級Bブロック準優勝 ライトヘビー級 3位
卓 球	2回戦敗退
ソフトテニス	個人戦2回戦敗退
バレーボール	1回戦敗退

インターハイ

種 目	実 績
弓 道	予選敗退
自 転 車	4Km速度 第2位
柔 道	ベスト16
新 体 操	個人総合15位
ボクシング	3階級出場

全国高校選抜大会

種 目	実 績
自 転 車	ケイリン 優勝 二千メートル個人追い抜き(女子) 5位

野 球

大会名	実 績
第89回全国高校野球選手権山梨県大会	準優勝
第60回秋季関東地区高校野球山梨県大会	3位

学 芸 局

種 目	実 績
写真部	読売写真大勝 第14回関東地区高等学校写真展 平成20年度全国高等学校総合文化祭 入選 1名 奨励賞 4名 出場決定
吹奏楽部	第13回西関東吹奏楽バンドフェスティバル 高等学校部門 優秀賞
放送委員会	第54回NHK杯全国高校生放送コンテスト全国大会 校内放送研究発表 研究奨励賞
建築研究部	日本建築協会主催第53回工業高校生デザインコンクール 第54回日本大学全国高等学校建築設計競技 優秀賞2名、入選2名 優秀提案賞 道都大学高校生住宅設計コンクール 優秀賞、審査員特別賞 佳作、奨励賞3名 第26回全国高校生建築製図コンクール 銀賞、銅賞
機械科	ホンダエコパワー燃費競技全国大会 出場 国家検定合格:普通旋盤3級 6人 :金属処理3級 20人 :機械検定3級 3人
電気科	第1種電気工事士4年連続2桁合格 H19:20人 関電研電気工事コンテスト関東大会 出場
建築科	中央工学校主催第1回建築系高校生対象コンペティション 最優秀賞、佳作2名、奨励賞4名 第21回日本工業大学建築設計競技 奨励賞 第6回愛知産業大学建築コンペティション(アイデア部門) 奨励賞 第54回日本大学全国高等学校建築設計競技 佳作 第26回全国高校生製図コンクール 入選 名古屋工業大学「エネルギーと環境」コンペティション 優秀賞、佳作
土木科	高校生ものづくりコンテスト(測量競技)関東ブロック 8位 第26回工業高校生製図コンテスト土木の部 芸術文化祭賞、金賞、銀賞

Ⅱ－① 教育課程の開発

山梨県立甲府工業高等学校

平成20年度入学生 教育課程

時間数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
1 学年	国語総合②		世界史 A ②		数学Ⅰ③		理科総合 A ②		体育②		保健①		美術②		英語③		家庭②		工業⑨										総合①		L H R ①	
	国語総合②		地理 A ②		数学Ⅱ④		物理Ⅰ③		体育②		保健①		英語②		工業④		数学 A ②		英語表現②		工業⑨										L H R ①	
2 学年	専門		選択		現代文③		現代社会②		体育③		工業⑧		ライティング②		物理Ⅰ②		数学Ⅲ④		工業⑬										L H R ①			
	専門		選択		現代文③		現代社会②		体育③		工業⑧		ライティング②		物理Ⅰ②		数学Ⅲ④		工業⑬										L H R ①			

平成20年度入学生 教育課程 山梨県立甲府工業高等学校(全日制)

	機 械 科			電 気 科			電 子 科			建 築 科			土 木 科		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年
普通科	国語表現Ⅰ 国語総合 現代文 世界史A 地理A 現代社会 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 理科総合A 物理Ⅰ	2 2 2 2 2 3 4 2 2 2 2 3	3 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2	国語表現Ⅰ 国語総合 現代文 世界史A 地理A 現代社会 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 理科総合A 物理Ⅰ	2 2 2 2 2 3 4 2 2 2 2	3 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2	国語表現Ⅰ 国語総合 現代文 世界史A 地理A 現代社会 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 理科総合A 物理Ⅰ	2 2 2 2 2 3 4 2 2 2 2 2	3 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2	国語表現Ⅰ 国語総合 現代文 世界史A 地理A 現代社会 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 理科総合A 物理Ⅰ	2 2 2 2 2 3 4 2 2 2 2	3 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2	国語表現Ⅰ 国語総合 現代文 世界史A 地理A 現代社会 数学Ⅰ 数学Ⅱ 数学Ⅲ 数学A 理科総合A 物理Ⅰ	2 2 2 2 2 3 4 2 2 2 2	3 3 3 2 2 2 4 2 2 2 2 2
工業科	工業技術基礎 課題研究 実習 製図 情報技術基礎 自動車工学 機械工作 工業管理技術 生産/AFM技術 機械設計 原動機 地球環境化学	3 5 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	3 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2	工業技術基礎 課題研究 実習 製図 情報技術基礎 ソフトウェア技術 工業管理技術 電気基礎 電子回路 電子計測制御 通信技術 電子情報技術 材料/IT応用	2 3 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2	3 3 3 3 2 2 2 3 2 2 2 2	工業技術基礎 課題研究 実習 製図 情報技術基礎 ソフトウェア技術 工業管理技術 電気基礎 電子回路 電子計測制御 通信技術 電子情報技術 材料/IT応用	2 3 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2 2	3 3 3 3 2 2 2 3 2 2 2 2 2	工業技術基礎 課題研究 実習 製図 情報技術基礎 ソフトウェア技術 工業管理技術 電気基礎 電子回路 電子計測制御 通信技術 電子情報技術 材料/IT応用	2 3 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2 2	3 3 3 3 2 2 2 3 2 2 2 2 2	工業技術基礎 課題研究 実習 製図 情報技術基礎 ソフトウェア技術 工業管理技術 電気基礎 電子回路 電子計測制御 通信技術 電子情報技術 材料/IT応用	2 3 2 2 2 2 2 3 2 2 2 2 2	3 3 3 3 2 2 2 3 2 2 2 2 2
総合的な学習の時間	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30

平成19年度入学生
教育課程

目	機 械 科			電 気 科			電 子 科			建 築 科			土 木 科			
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
普 通 科	国語表現Ⅰ			国語表現Ⅰ			国語表現Ⅰ			国語表現Ⅰ			国語表現Ⅰ			
	国語総合	2	2	国語総合	2	2	国語総合	2	2	国語総合	2	2	国語総合	2	2	
	現代文		3	現代文		3	現代文		3	現代文		3	現代文		3	
	世界史A	2		世界史A	2		世界史A	2		世界史A	2		世界史A	2		
	地理A		2	地理A		2	地理A		2	地理A		2	地理A		2	
	現代社会		2	現代社会		2	現代社会		2	現代社会		2	現代社会		2	
	数学Ⅰ	4		数学Ⅰ	4		数学Ⅰ	4		数学Ⅰ	4		数学Ⅰ	4		
	数学Ⅱ		4	数学Ⅱ		4	数学Ⅱ		4	数学Ⅱ		4	数学Ⅱ		4	
	数学Ⅲ			数学Ⅲ		4	数学Ⅲ		4	数学Ⅲ		4	数学Ⅲ		4	
	理科総合A			理科総合A		2	理科総合A		2	理科総合A		2	理科総合A		2	
目 科	物理Ⅰ	1	2	物理Ⅰ	1	2	物理Ⅰ	1	2	物理Ⅰ	1	2	物理Ⅰ	1	2	
	体育	2	2	体育	2	2	体育	2	2	体育	2	2	体育	2	2	
	保健	1	1	保健	1	1	保健	1	1	保健	1	1	保健	1	1	
	美術Ⅰ	2		美術Ⅰ	2		美術Ⅰ	2		美術Ⅰ	2		美術Ⅰ	2		
	オラル・コミュニケーションⅠ	1	1	オラル・コミュニケーションⅠ	1	1	オラル・コミュニケーションⅠ	1	1	オラル・コミュニケーションⅠ	1	1	オラル・コミュニケーションⅠ	1	1	
	英語Ⅰ	2	2	英語Ⅰ	2	2	英語Ⅰ	2	2	英語Ⅰ	2	2	英語Ⅰ	2	2	
	英語Ⅱ			英語Ⅱ		2	英語Ⅱ		2	英語Ⅱ		2	英語Ⅱ		2	
	家庭基礎	2		家庭基礎	2		家庭基礎	2		家庭基礎	2		家庭基礎	2		
	小計	19	16	10 (16)	小計	19	16	小計	17	16	小計	19	16	小計	19	16
	普通科合計	45	(51)		普通科合計	45	(51)		普通科合計	43	(49)		普通科合計	45	(51)	
工 業 科	工業技術	3		工業技術	3		工業技術	2		工業技術	3		工業技術	3		
	課題研究			課題研究		3	課題研究		3	課題研究		3	課題研究		3	
	実習		5	実習	2	3	実習		3	実習		3	実習		3	
	製図	2	2	製図	2	3	製図	1	1	製図	3	3	製図	3	3	
	情報技術	2		情報技術	2	2	情報技術	2	2	情報技術	1	1	情報技術	2	2	
	材料			材料		3	材料		2	材料		2	材料		2	
	生産管理		3	生産管理		4	生産管理		2	生産管理		2	生産管理		2	
	工業技術			電気基礎		2	工業技術		2	工業技術		2	工業技術		2	
	電力技術			電力技術		2	電力技術		2	電力技術		2	電力技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術		3	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
目 科	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	電子技術		2	
	電子技術			電子技術		2	電子技術									

Ⅱ－② 高校入試への対応

山梨県立甲府工業高等学校

1. 教育方針

甲府工業高校は「質実剛健」を校訓とし、「技術者となる前に人間となれ」を信条として、新しい時代を主体的・創造的に生きる、人間性豊かな良識ある工業人を育成する。

山梨の産業を支える工業高校として、地元の大学や企業との連携を深め、本県の特徴ある産業を学び、社会に貢献できる将来のものづくりスペシャリストの育成を目指す。さらに、「専門教科の深化を図る教育」の実践、「工業系大学進学を目指した教育」の実践、及び「部活動の強化」を図り、全国トップレベルの工業高校を目指す。

(1) スペシャリストの育成

各科の目指す方針。

【機械科】設計・製図・加工・組立など機械技術を学習し、将来この分野で活躍できる人材を育成する。

【電気科】エネルギーや電気技術を学習し、将来この分野で活躍できる人材を育成する。

【電子科】コンピュータ制御やネットワーク通信などの先端技術を学習し、その知識を活かし、将来この分野で活躍できる人材を育成する。

【建築科】建築に関する設計・施工の技術・技能を学習し、将来この分野で活躍できる人材を育成する。

【土木科】道路・鉄道・トンネル・ダム・橋などの構造物を建設するための設計と測量を学習し、将来この分野で活躍できる人材を育成する。

(2) 自己実現を目指したキャリア教育

平成20年度入学生より、ものづくりスペシャリストの育成や国公立大学等への進学に対応した新しい教育課程を実施する。

<就職への対応>

甲府工業高校は、90年という長い歴史の中で、産業界に多くの人材を送り出している。就職活動においては、数多くの同窓生より様々な支援を受けることができる。1年次にインターンシップ、2年次に職場見学、3年次に模擬面接・模擬試験・作文指導などを実施し、企業理解と進路実現を目指す。

<進学への対応>

国公立大学や私立4年制大学への進学希望者は、2・3年次に選択科目で普通教科を履修し、進学に対応した学習の深化をはかることができる。また、早朝課外・進学模試・小論文(面接)指導などを実施し進路実現を目指す。

(3) 特色ある学校づくり

スポーツ・文化活動では、多くの部活動で全国大会の出場実績があり、全国レベルの活躍を目指している。また、大学との協働研究や、海外の姉妹校(韓国)との交流を積極的に行い、幅広い人間性の育成を目指している。

各種資格取得に力を入れ、数々の実績を上げることで、専門性の深化につなげている。

2. 志願してほしい生徒像

工業の専門分野に興味・関心を持ち、ものづくりや資格取得に熱心に取り組む意欲があり、基本的な学力を有し、次のいずれかの要件に該当する者。

○基本的生活習慣が確立しており、中学校の3年間の出席状況がきわめて良好で、学習成績が全般的に優れている者。

○工業に関する将来のスペシャリストになるために、大学進学や高度な資格を取得するなど明確な目的を持ち、各科において中心的な活躍が期待できる者。

○体育的な活動や文化的な活動等において顕著な実績を上げ、入学後も積極的・継続的に活動できる者。

3. 前期募集選抜方法

(1) 募集定員に対する募集率

全学科共 50%以内

(2) 出願の条件

条件 A

中学校での学習成績や行動が良好で、将来の目的を明確に持ち、入学後も各科の活動において、中心的に活躍できる者。また、ものづくりに興味・関心が高く、将来のスペシャリストを目指す者。

条件 B

学習面の基礎的な力とともに、教科以外の活動においても実力を有し、高校において積極的にその活動を続ける意志の強い者で次に該当する者。

○本校の部活動に関係するスポーツ及び文化活動の種目、または類似した活動において、県レベル以上の大会で、中心となり活躍したことを公的に証明することができる者。または、それと同等以上の力量があると中学校長が認め証明書を発行できる者。

【本校の部活動】

- ・体育局：陸上・駅伝、バスケットボール、サッカー、バレーボール、卓球
ソフトテニス、ラグビー、ハンドボール、バドミントン、新体操
柔道、剣道、弓道、自転車、ボクシング、空手、テニス、野球
- ・学芸局：美術、写真、吹奏楽、茶道、軽音楽、機械技術、情報システム
建築研究、ハングル語研究、無線

(3) 面接

実施のねらい	実施形態等	検査時間
本校及び志望学科を志望する動機と興味・関心、学習意欲、入学後の高校生活への意欲、将来の希望や特技等を確認する。また、中学校における基礎的な学力を確認する。	個別面接 (出願人数により集団面接になる場合もある。)	15分程度 (集団面接の場合は20分程度)

(4) 本校で定める検査

検査方法	検査内容
作文	時間：40分 字数：400字
特技	実績として提出された証明書等の書類審査
個性表現	5分程度の実技披露又は発表・表現を行う

(5) 選抜資料比重

区分	調査書	面接	作文	特技	個性表現	備考
条件 A	50	30	20	—	—	前期募集人員の6割程度
条件 B	40	30	—	10	20	前期募集人員の4割程度

※ 調査書の学習の記録については、第3学年を評価の対象にする。

(6) その他

○出願の条件 B を選択した生徒は、本校で定めた志願票に証明するもの(コピー可)を貼り付け提出する。

○本校への出願に必要な書類については、本校事務室にて随時入手することができる。また本校のホームページでもダウンロードすることができる。

URL <http://www.kofu-th.ed.jp/>

4. その他

○山梨県高等学校運動部強化指定(平成19年度)

ボクシング、卓球、バレーボール、新体操、サッカー、自転車、柔道

受検 番号	※	※
----------	---	---

志 願 票 (条件B)

平成 年 月 日

山梨県立甲府工業高等学校長 殿

出身(在学) 中 学 校 名	中学校		
ふ り が な 志 願 者 氏 名	男 ・ 女		
生 年 月 日	平 成	年	月 日生
保 護 者 氏 名	印		
希望する 本校の部活動 (○で囲む)	陸上・駅伝 バスケットボール サッカー バレーボール 卓球 ソフトテニス ラグビー ハンドボール バドミントン 新体操 柔道 剣道 弓道 自転車 ボクシング 空手 テニス 野球 美術 写真 吹奏楽 茶道 軽音楽 機械技術 情報システム 建築研究 ハングル語研究 無線		

特 技

	大会等、公的証明書にて申請	公的に証明できる書類で申請するか、中学校長が認める証明書で申請するか、どちらか1つ選んで○を付けてください。なお、公的証明書で申請する場合は下の欄にも必要事項を記入してください。
	中学校長が認める証明で申請	

分野(部活動等)			
実績及び内容	大 会 名 (正式名称)		
	主 催		
	大会規模 (○で囲む)	県 関東 全国 その他 ()	
	参加校数		
	実 績		

○申請する者は、実績を示す賞状・認定証等(コピー可)又は中学校長が認める証明書(形式自由)を必ず添付してください。

個性表現

表現の内容		
内容の概要及び アピールしたいこと		
必要な 機材・ 用具 等	受検者が用意 するもの	
	受検校が用意 するもの(希望)	

(注)

- 1 志願者氏名及び保護者氏名は、それぞれ本人自筆とし、黒のボールペンを使用してください。
- 2 ※印欄は記入しないでください。
- 3 個性表現は屋内で実施できる内容としてください。
- 4 志願票(本票)は日本工業規格A4(縦)してください。

平成19年度 校内組織及び主營業務

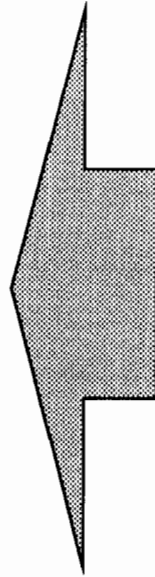
H18				H19			
No	分掌名	グループ	主 管 業 務	委員会およびW/G			
1	教務	教務	学校要覧・案内、公文書関係、時間割編成、行事計画、教育課程、儀式・式典、諸会議記録、教育実習、高校入試、学籍・転籍、調査・統計、指導要録・諸帳簿、定期テスト・成績表、教科書・教材等	運営委員会 教育課程委員会 入学者選抜委員会 学校評価委員会 生徒指導委員会			
2	生徒指導	生徒指導	安全指導、校内・校外指導、生活及び巡回指導、登校指導、遅刻指導、服装・頭髪指導	いじめ不登校W/G 進路推薦委員会			
3	教育相談(主任)	教育相談	教育相談、いじめ不登校ワーキンググループ、特別支援教育	インターンシップ推進委員会			
4	進路指導(主事)	進路指導	進路の手引き、就職指導、進学指導、出願指導、模擬試験、課外授業、各種講演会、面接指導	強歩大会W/G 後援会事務局 ボランティア推進W/G			
5	生徒会(主任)	生徒会	インターンシップ、企業アンケート 実施要綱の検討、協力者(保護者)への対応、当日の運営 体育局、文化局、専門委員会、本部、学園祭、各大会応援、五葉編集 ボランティア、校内スポーツ大会	学校保健委員会 学校安全衛生委員会			
6	保健・環境防災(主事)	保健(G/L)	検診・検査、保健統計、教育相談、救急措置、健康相談、高校保健会、日本スポーツ振興センター、学校安全衛生委員会	高校教育改革推進協議会 90周年記念事業実行委員会 学校評議委員会 将来構想検討委員会			
7	総務(主任)	環境防災(G/L) 国際交流(G/L) 渉外(G/L) 厚生(G/L) 企画・広報	環境問題、清掃・安全点検、防災計画 姉妹校(青洲機械工校)交流、国際交流受け入れ PTA関係(PTA新聞、PTAホームページ)、同窓会関係、学校評議員 奨学金、購買 将来構想検討、地域交流、学校紹介パンフレット、ホームページ企画	サイエンスパートナーシップW/G 研究委員会			
8	研究・研修(主任)	教養(G/L) 研修(G/L) 研究(G/L)	朝読書、図書館、文化公演 教員の研修計画 研究の調査・企画、紀要の編集	情報システム管理委員会			
9	情報システム管理(主任)	システム管理	ネットワーク機器の運用管理、コンピュータ室の運用管理、ホームページ維持管理、ヘルプデスク	総合学習推進W/G 修学旅行検討W/G			
10		視聴覚(G/L)	視聴覚機器の維持・運用管理、学校紹介ビデオ等の作成	クラフトマン21推進委員会 課題研究発表会W/G			
11		1学年(主任) 2学年(主任) 3学年(主任) 機械科(主任) 電気科(主任) 電子科(主任) 建築科(主任) 土木科(主任)	総合学習、スキー教室、学年運営 修学旅行、インターンシップ、学年運営 進路指導、学年運営 科運営 インターンシップ、コンテスト、課題研究発表会、工業教育部会関係				

H18	
No	分掌名
1	教務
2	生徒指導
3	進路指導
4	生徒会
5	保健
6	環境防災
7	体育
8	渉外
9	厚生
10	教養
11	研修
12	研究
13	教育情報
14	1学年
15	2学年
16	3学年
17	機械科
18	電気科
19	電子科
20	建築科
21	土木科

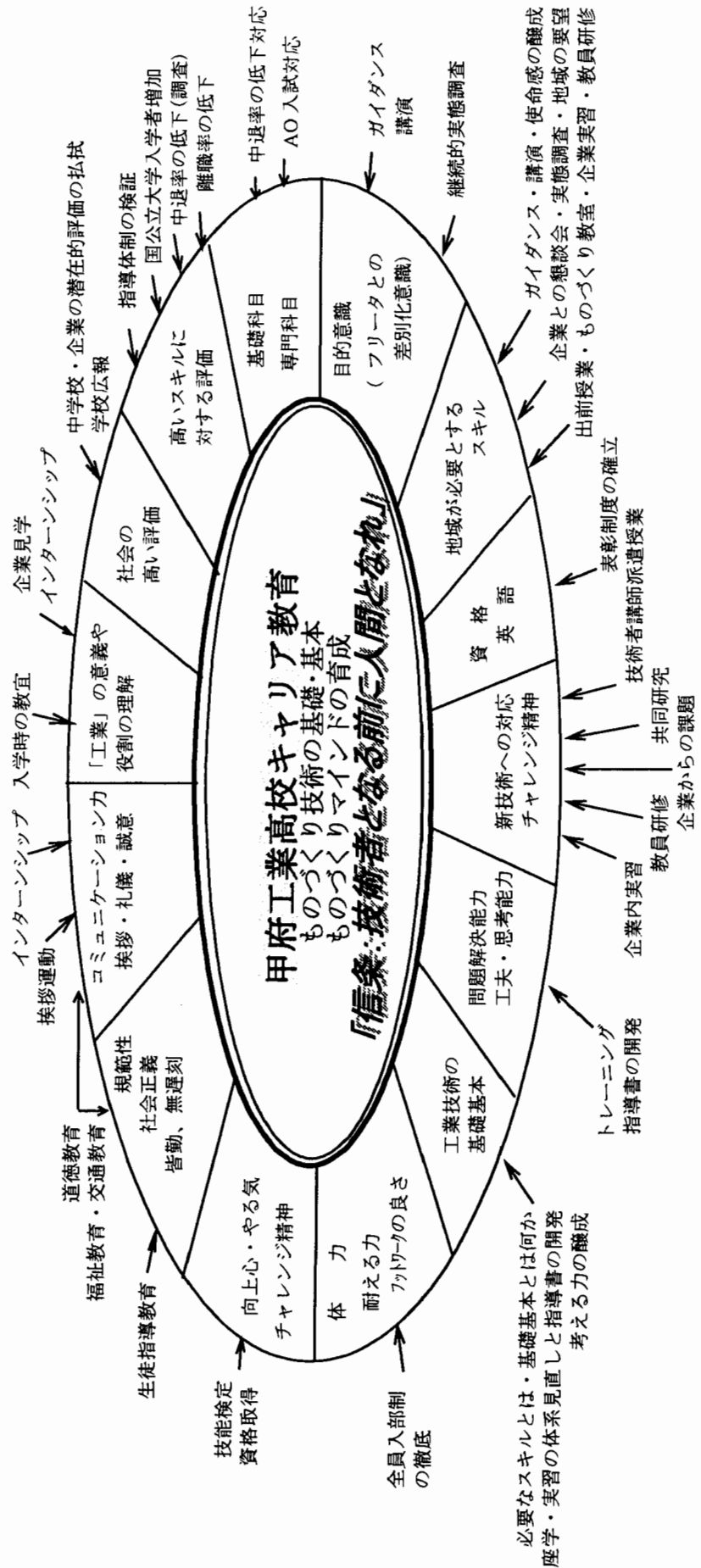
Ⅱ－④ 自己実現のためのキャリアプランの開発

地域産業を支える中核人材の育成
スーパー甲府工業

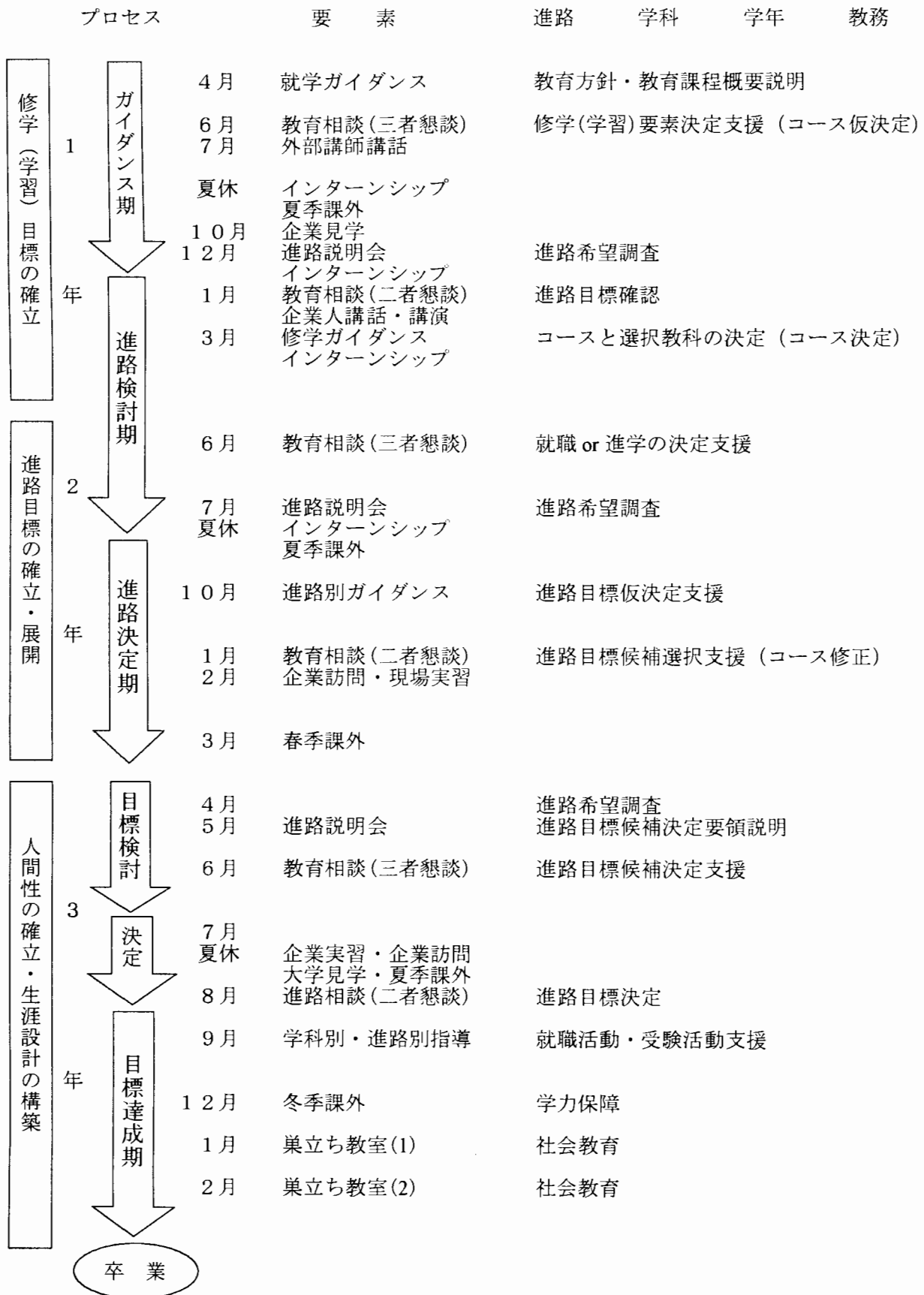
工業の魅力UP
時代にマッチした技術、技能教育



企業・学校の相互理解
地域理解、保護者・学校の連携
(三者懇談、ガイダンス、催し物)



甲府工業高校キャリア教育の流れ



年間指導計画 2008

進路指導部

学年ごとの行事

	3年	2年	1年
4月	実力診断テスト 4/10 進路希望調査 春休み中の勉強の成果を評価 進路決定、6月の教育相談における 資料	実力診断テスト 4/10 現時点での学 力診断	実力診断テスト 4/10 中学校時代 の学力診断
5月	進学者早朝課外開始 (～11月) 小論文模試 5/14 進路説明会 英語・数学 進学者対象 推薦条件 になる 進路関係(放課後) 大学、短大、専門学校、就職、公務 員についての説明	進路希望調査 進路に対する 意識付け	進路希望調査 進路に対する 意識付け
6月	進路模試(就職者+ 進学者) 6/4 教育相談 進学者(英・数・国・社・理 選択制) 就職者(一般常識、専門、作文、クレ ペリン、適性検査) 進路決定	教育相談 進路について	教育相談 進路について
7月	求人受付 小論文ガイダンス 小論文模試 7/14 模擬面接講習会 講師を招き小論文の書き方を指導 ガイダンスを受けての2回目の模試 進学者・就職者にわかれ面接の指 導を受ける		
8月	3年登校日 物理課外 就職者進路推薦委員 会 就職関係書類提出 夏休み中4回の登校、進路決定のた め 進学者対象 就職者の推薦決定 就職者履歴書提出		インターンシ ップ 就業体験
9月	就職関係書類発送 進路模擬面接 進路模試 9/9,10 就職試験開始 9/16 ～ 進学者進路推薦委員 会 企業や大学の講師を招き、実際の面 接指導を受ける 進学者の希望者のみ受験(英・数・ 国・社・理 選択制) 進学者の推薦決定		
10月	山梨大学受験者 課 外 受験予定生徒対象 英・数・物、小論 文、プレゼン指導	進路希望調査 実力診断テスト 10/29 進路に対する 意識付け 学力診断	進路希望調査 実力診断テスト 10/29 進路に対する 意識付け 学力診断
11月	山梨大学受験者 課 外 受験予定生徒対象 英・数・物、小論 文、プレゼン指導		
12月	四年制大学合格者生 徒保護者懇談会	進路説明会 小論文ガイダ ンス・模試 12/16 保護者対象 午後	進路説明会 インターンシ ップ 保護者対象 午後 就業体験
1月			
2月		進路模試 2/3 企業見学 小論文模試 2/5 国・数・英 放 課後	進路模試 2/3 国・数・英 放 課後
3月		特別課外(予備 校) 進学希望者	特別課外(予備 校) 進学希望者

進路計画(現行)

学年	月	関連行事	懸念・面接	講習会・検定	課外等	模試等
1年	4月	進路希望調査(進路に対する意識付け) 学年集会 各科集会			建築設計競技に参加するため早期課外(A科) 3級計算技術検定勉強会(C科)	
	5月				第二種電気工事士筆記試験課外	
	6月		教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科) 3級技術検定試験(C科)		実力模試(外部)
	7月	学年集会		外部講師による講話(総合学習) 第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 総合学習講習会(T科)	第一種電気工事士筆記試験課外	
	8月	インターンシップ 各科集会			第三種電気主任技術者試験課外	
	9月			第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	第一種電気工事士筆記試験課外	進路模試
	10月	現場見学(A・C科) 工業部会製図コンクール(A科)		資格取得のための早期学習会(A科)		
	11月	山梨テクノフェア見学(T科) ユニバーサル5輪大会見学(M・A科) 東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)			第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	進路希望調査 インターンシップ 学年集会 高大連携研究成果発表会(T科) 課題研究発表会(A科)		第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)		
	1月	課題研究発表会(見学)		大工技能検定講習会②(A科)		
	2月	企業訪問 職場実習 出前授業(C科)				SPI模試試験 小論文模試 進路模試
	3月	学年集会		測量士補講習会(3/28まで)	夏季特別課外	
2年	4月	学年集会 各科集会		測量士補講習会早期講座	建築設計競技に参加するため早期課外(A科)	
	5月	進路説明会 進路選択・推薦条件(推薦条件の説明)		測量士補資格試験	進学者早期課外開始 第二種電気工事士筆記試験課外	小論文模試
	6月	建設現場見学会(C科)	教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科)	2級土木施工管理技術検定への取り組み(C科)	進路模試(進学者・就職者 別対応)
	7月	求人受付・企業訪問 学年集会 履歴書記入方法指導(2回目) 大学の出前授業(神奈川工科大学 T科)	模擬面接講習会	小論文ガイダンス(外部講師による書き方指導) 第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 製図技能検定A級(A科)	第一種電気工事士筆記試験課外	小論文模試 進路模試
	8月	各科集会			夏期特別課外 第三種電気主任技術者試験課外	
	9月			第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	第一種電気工事士筆記試験課外	進路模試
	10月	進路希望調査(進路に対する意識付け) 工業部会製図コンクール(A科)		資格取得のための早期学習会(A科)		
	11月	ユニバーサル5輪大会見学(A科) 大学の出前授業(日本工科大学 A科) 東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)			第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	進路説明会(保護者対象) 学年集会 課題研究発表会(A科)		小論文ガイダンス 高度熟練技能者講習(M科) 第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)		作文模試
	1月	課題研究発表会(見学)		大工技能検定講習会②(A科)		
	2月	企業訪問 職場実習 出前授業(C科)				SPI模試試験 小論文模試 進路模試
	3月	学年集会		測量士補講習会(3/28まで)	夏季特別課外	
3年	4月	各科集会 進路希望調査・資格調査(6月の教育相談の資料及び履歴書等の活用するため) 履歴書記入方法指導(1回目)		測量士補講習会早期講座	建築設計競技に参加するため早期課外(A科)	課題テスト
	5月	進路説明会 進路選択・推薦条件(推薦条件の説明)		測量士補資格試験	進学者早期課外開始 第二種電気工事士筆記試験課外	小論文模試
	6月	建設現場見学会(C科)	教育相談	第二種電気工事士筆記試験 レタリング技能検定(A科)	2級土木施工管理技術検定への取り組み(C科)	進路模試(進学者・就職者 別対応)
	7月	求人受付・企業訪問 学年集会 履歴書記入方法指導(2回目) 大学の出前授業(神奈川工科大学 T科)	模擬面接講習会	小論文ガイダンス(外部講師による書き方指導) 第二種電気工事士技能試験講習会 第二種電気工事士技能試験 製図技能検定A級(A科)	第一種電気工事士筆記試験課外	小論文模試 進路模試
	8月	3年登校日、各科集会 就職希望者推薦委員会(就職者の推薦決定) 就職関係書類提出(就職者履歴書提出) 学校訪問・企業訪問 ものづくりコンテスト県内大会・体験学習(C科)			物理課外 1学期欠点補充課外 第三種電気主任技術者試験課外	課題テスト 土木科就職試験問題(C科)
	9月	就職関係書類発送 進学者進路推薦委員会 就職試験開始(9/16) 大学訪問報告研修会(5国立大学の推薦入試の調査報告) 進路相談 ものづくりコンテスト関東ブロック大会	進路模面接 科独自面接(各科)	小論文指導 第三種電気主任技術者試験 第一種電気工事士筆記試験	第一種電気工事士筆記試験課外	進路模試(進学者の希望者のみ受験)
	10月	熟処理(M科) 職場見学(M科) 工業部会製図コンクール(A科)			山梨大学受験者課外	
	11月	東日本建築教育研究会製図コンクール(A科)	指定校推薦模面接 指導(T科)	2級技術検定(A科)	山梨大学受験者課外 第一種電気工事士技術試験課外	
	12月	学年集会 高大連携研究成果発表会(T科) 課題研究発表会(A科)		第一種電気工事士技能試験 大工技能検定講習会①(A科)		
	1月	学年末試験に対する説明(欠点が予想される生徒への指導) 外部団体表彰規定(外部からの表彰の確約) 職場見学(M科) 科内課題研究発表会(各科)		金融に関する講話(クレジャ・金融に対する講話) 大工技能検定講習会②(A科)	2学期欠点補充課外	
	2月			年金に関する講話		
	3月	卒業式				

Ⅱ－⑤ インターンシップの実施

インターンシップ（就業体験）実施要項

甲府工業高等学校

- 1 目的： 生徒自らが地域産業を体験することにより、自らの進路を明確にし、学習意欲を高め、職業研究に対する意欲や地域の一員としての自覚を喚起し、必要な能力・態度を身につけ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、自らの社会性を高めてゆく。
- 2 実施期間：
①平成19年 8月21日（火）～23日（木）（3日間）
- 3 対象生徒：1学年
電気科、電子科、建築科、土木科の就職希望生徒及び参加希望生徒
合計約26名
- 4 実施企業：別紙依頼企業（開拓中）
- 5 就業時間：詳細は各企業との調整
- 6 作業日誌について
 - ・作業日誌は、学校側で準備。
 - ・毎日、終業後に作業日誌に記載し、指導担当者の検印を受ける。
- 7 1日目のオリエンテーションと、最終日の反省会について
 - ・各企業で、企業毎に実施。
- 8 服装について
 - ・作業衣～生徒は学校の実習着を持参し、会社で着替える。
 - ・作業靴～運動靴で出勤し、作業に入る。
※下記の企業では安全靴の貸出しをする。
()
 - ・作業帽～学校の実習帽を着用、但し下記の企業を除く。
()
- 9 交通手段：自宅から会社への往復は、各自が最適な方法で行う。
交通安全には十分注意する。

10 安全対策

- ・安全には十分配慮する。
- ・学校でも事前に安全教育を実施する。
- ・万が一ケガ等の場合、日本スポーツ振興センターの災害共済給付（加入済）とインターンシップ等体験活動傷害保険（学年にて加入）にて対応する。
- ・損害賠償保険については、全高P連賠償責任補償制度（学年にて加入）にて対応する。

11 事前指導

下記の日程で、インターンシップの意義、就業上の緒注意、安全対策などについて生徒に事前指導する。

（7／5（木） 3校時 期末試験最終日）

講演会：7月10日（火）12：50～14：00

視聴覚室

講師 山梨県経営者協会

専務理事 一瀬 茂夫

12 保護者への了解と承諾書

趣意書の配布と承諾書の回収

13 本校教職員による、期間中の生徒への指導について

工業科・1学年・進路指導部職員が、授業の合間に各企業を訪問する。

14 その他

- ・やむを得ない事情で欠勤する場合、必ず就業先企業へ電話連絡する。
- ・緊急時の学校への連絡先（電話番号055-252-4896）
インターンシップ工業科担当（大野）
1学年主任（河野）
進路指導主事（中沢）
- ・実施後の生徒の評価とアンケートについて、各企業にお願いし、今後の参考とする。

15 参加生徒名簿および通勤方法

- ・別紙記載（今後、作成予定）

平成19年度判 インターンシップ実施計画 日程表

実施予定日

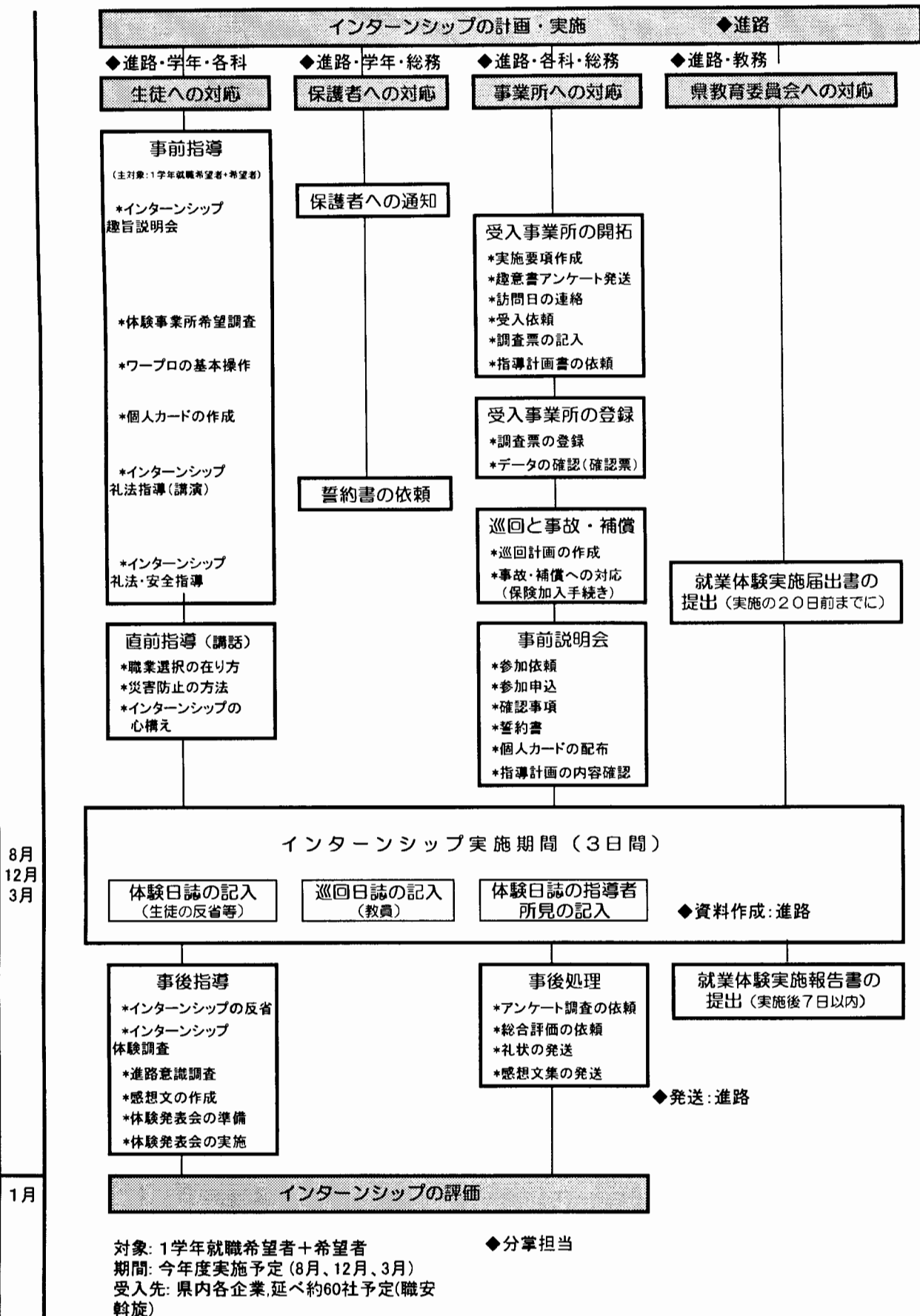
平成19年8月21日(火)～23日(木)3日間
平成19年12月11日(火)～13日(木)3日間
平成20年3月21日(火)～23日(木)3日間

対 象 生 徒 : 1学年就職希望者全員+希望者

指 導 担 当 職 員 : 進路、1学年、各科

月	日	進路	工業科	1学年	1学年・生徒・保護者
5	16	<委員会開催>			
	23	<工業科との事前打ち合わせ>			
					学年集会で説明
		*実施要項作成			総合的な学習の時間説明
		*趣意書作成			
6		*アンケート作成			
		<受入事業先開拓>			
	13	<委員会開催>	*趣意書送付先調整		総合的な学習の時間
	15	*趣意書・アンケート発送	<受入事業先開拓>		
		*求人來校企業に依頼			
		*アンケート回収			
	22	<運営委員会提案>			
	25			1学年会議	
	27	<職員会議提案>			
7	28		<科会議>		
		*受入事業者訪問担当調整	*訪問担当者調整		
			*受入事業先連絡	(就業受け入れ先連絡)	
			*訪問日の連絡	(訪問日の連絡)	
		<求人來校企業に依頼>	*受入依頼		
			*訪問・調査票の記入		
			*指導計画の依頼		
		<依頼活動中間報告>	*就業内容の確認		就業体験希望者調査
	10				インターンシップ講演会 (意義、礼法、安全)
		*受入事業所登録			
		*調査票の登録			
		*データ確認	<巡回と事故・補償>		
		*受入事業所一覧作成	*巡回計画作成		学年PTA懇談会で説明 協力依頼
			*事故・補償への対応		
		*就業体験実施届出書提出(県教委)			
		<依頼事業所決定>	*個人カード作成	*個人カード作成	*個人カード作成
			*生徒就業先希望調査	*生徒就業先希望調査	*生徒就業先希望調査
			*就業先事業所決定	*就業先事業所決定	*就業先事業所決定
	26	<事前説明会>			
		*依頼文書の宛先代表者の確認			
8		*依頼文書作成			
		*参加申し込み			
		*確認事項			
		*誓約書			
		*個人カード配布			
		*指導計画内容確認	*指導計画内容確認		*就業先確認
		*保護者への要請文作成		保護者への要請文印刷配布	*保護者承諾書
		*保険加入手続き			*保険加入手続き
		*就業者一覧作成	事前指導	事前指導	*就業内容の確認
					*就業先現場確認
9	20		事前指導	事前指導	事前指導
	21		就業先巡回訪問	就業先巡回訪問	就業体験
	22		就業先巡回訪問	就業先巡回訪問	就業体験
	23		就業先巡回訪問	就業先巡回訪問	就業体験
	1	*就業体験実施報告書提出(県教委)			
	10		お礼文指導	お礼文指導	
			感想文作成指導	感想文作成指導	感想文作成
			お礼文書作成		
	15	お礼文発送			
		報告書・感想文集作成			
		報告書・感想文集 郵送			

甲府工業高校 インターンシップ実施フロー



Ⅱ－⑥ 校内研修会

校内研修会

研究・研修部

1 テーマ 「学校マネジメント研修」

2 場所 会議室

3 グループ

8月2日(木)

岩下道子	藤本和美	沢登美接	渡辺信一	寺沢郁夫	大野政彦	山西保久
渡辺 勉	手塚 司	宮澤和彦	岡 道男	望月 裕	伊東雅人	望月明夫
三神幸子	伊藤正子	長田 宇	時田 透	河野公昭	中澤 透	小林峰夫
三井 勇	長谷川琢也	内田瑞樹	中沢 稔	新谷幸司	名取良太	志村利治
瀧田 修	若月天政	望月紀男	沓間 正	御影裕文	浅川俊夫	飯嶋清二

35名

8月24日(金)

八代由紀	古屋勝規	時澤豊見	依田真澄	中沢雄次	楠 秀樹	玉置 宏
細田智彦	雨宮和美	近浦研一	市川英寿	塩入由里	二宮淳一	石坂 務
早川誠司	仲田浩士	中澤正明	竜澤章友	前嶋 完	中田秀樹	大木香織
齊藤 伸	川邊敦子	保科千春	鈴木健治	植松直希	平賀裕美	大澤正樹
近藤耕一	中山宗彦	大木紀代美	石合不二夫	桑原 寿	櫻井良明	原 誠二

35名

講師紹介

山梨大学教育人間科学部 教授 榎原 禎宏(よしひろ)氏

専門 学校組織論・教師教育論・公教育経営論

ホームページ

<http://homepage3.nifty.com/yoshi-paeda/index.htm>

甲府工業高等学校
学校マネジメント研修

2007. 7

榎原 慎宏

山梨大学教育人間科学部

専攻: 学校組織論、公教育経営論

saka@yamanashi.ac.jp

<http://homepage3.nifty.com/yoshi-paeda/index.htm>

はじめにー学校経営の考え方

- 教育とパラドックス、例えば、叱るとほめるーだからこそ「正誤」でなく「適否」が問われる。
- 「適否」が問われる教育のポイントの一つは、「開かれた身体」と、そのためのアイデア、そしてコミュニケーションを生み出す力です。
- 人と人とのつながりをいかに作っていくか、「適否」は、まさに学校経営・運営の基本テーマです。

今の学校をどう見るかー教職員個人では、問題に対応できない時代

- 学校の正当性がゆらぎ、「勉強」に向けた社会的圧力が低減ー「どうして学校に行かなければいけないの」「なぜそうするのか説明してほしい」。
- 学校教育の複雑性が露出ー「教員個人の信念や論理」だけでは、児童・生徒や保護者あるいは地域住民の納得が得られない状況に。
⇒では、どうすればいいのか。

こんな状況に学校はないだろうか。
ー検討してみましょう。

- 「あの人がどこでどんな経験をしてきたのか、よく知らない。だから、仕事を頼みにくい」
- 「あの先生は自分が担任する学級を”わが社”といって、他の人が意見するのをとても嫌がる。何とかならないか」
- 「あの人は、『いやあ、もう退職まで数年を残すばかりですから』と、さっぱりやる気になってくれない」
⇒人的資源の管理と活用に関わる問題

こんなことはないだろうか。

- 2004年7月6日午前8時50分頃、秋田県立秋田工業高校(秋田市)の工業実習担当の教諭(42)が、始業時刻より10分ほど遅れて学校に入ってきた2年生の男子生徒に対し、遅刻を指導するとして、実習室に連れ込んで、平手打ちなどの暴行を加えた。生徒は病院で頸椎捻挫と診断された。
- 暴行を受けた生徒は、通院のために、事前に担任教諭に遅刻の届けを出していたという。秋田県教委は2004年8月26日、加害教諭を減給処分にした。
(「体罰」データベース、より)

- 高知県高知市の高知県立高知工業高校で2007年、野球部監督・Kが指導中に部員に対して「体罰」を繰り返していたことが明らかになった。
- K監督は2007年度に人事異動で同校に赴任し、赴任と同時に野球部監督兼部長に就任した。2007年4月の赴任直後から複数回にわたり、部員を平手打ちするなどの「体罰」を繰り返していた。
- 目撃者が学校に情報を寄せたことがきっかけとなり、2007年6月に「体罰」が発覚。学校側の調査に対して、監督は事実関係を認めた。学校側は2007年6月に監督を解任した。(「体罰」データベース、より)

問題はどこにある

- 情報が共有されていなかったゆえに生じた、似たようなケースはあっただろうか。
- あるいは、問題に気づいていながら、何もなかった(「見て見ぬふり」)はなかっただろうか。
- 教育が一人で行う(個業)ことが良い場合も多いが、みんなでやる(分業、協業)ことが効果的な場合も多い。
- ⇒どのように、人たを繋ぎ、関わるようにすれば、よりよい結果を導くか。

- 「体罰を起こした事例についてみると、次のような傾向が見られる。...⑧自分の学級の問題点を同僚や学年、上司等に打ち明けアドバイスを受けようとする。...⑨自分の価値観や規範の中に子どもをおさめようとする。⑩その日の自分の体調などによって気分が変わる。⑪自分の思いどおりに子どもを動かそうとする」(兵庫県龍野市教育委員会、「心の通い合う学校づくりー体罰根絶に向けてー」検討委員会、2000.7)

- ⇒「風通しのよい」職場を実現することで、いかに知恵を出し合い、自分の「偏り」を修正できるか。
- ⇒協調だけでなく、社交を重視した対話のある人間関係をどう作っていくか。

あるいは、

- 「この1年間の目標はよくわからない。日々の業務をこなすだけだ」
 - 「同僚がどんなことを考えたり、願ったりして、実践に取り組んでいるのかあまりわからない。だから相談や議論をしにくい」
 - 「生徒たちに通知表を付けるように、教職員も何らかの評価が必要かと思うが、その物差しがないのでどうしたらいいのかわからない」
- ⇒目的・目標の設定に関わる問題

あるいは、

- 「毎日、頑張っているけれど、どんな目標を立てたのか忘れちゃったなあ」
 - 「一度決めた目標は何としても実現させるように努力しなければならないのだろうか」
 - 「自己目標のチェックは、どう進めればいいのか」
- ⇒運営の仕方に関わる問題

あるいは、

- 「校長が一生懸命に話していることはわかるけれど、結局のところ何が言いたいんだろう」
 - 「『相手の立場に立って』と生徒にはよく言うけれど、なかなかあの先生の考えが理解できないなあ」
 - 「よく集まっている割には、意外にみんなに情報が行き渡っていないかったり、そもそも個々で何をしているのか知らないことすらある」
- ⇒コミュニケーションに関わる問題

マネジメント(management): 手づくり

- manus 手(ラテン語)
- 類語: manufacture, manual, manuscript, manipulate, manicure, cf. pes⇒pedal
- 管理、経営、処理、
- 学校組織マネジメント、学校経営、学校づくり

中央教育審議会 初等中等教育分科会
教育行財政部会 学校の組織運営に関する作業部会
(2004.12)

- 「平成12年の教育改革国民会議報告では、学校運営を改善するには、現行体制のまま校長の権限を強くしても大きな効果は期待できないとの認識のもと、校長が独自性とリーダーシップを発揮できるよう、学校に組織マネジメントの発想を導入することを提言している。これを受けて、学校組織マネジメントの研修の実施などの取組が進められているところである。(中略)」
- 学校の権限が拡大されていくなかで今回改めて、組織的な学校運営を実現するための組織運営体制の在り方について検討するものである。その際、有機的な連携によりチームワークとして機能を発揮するなど学校の特質も考慮する必要があると考える。また、学校全体で目的を共有し学校が組織として力を発揮できるよう、目的意識の共有化や組織体制の整備、評価などの在り方で学校に応用できるものを取り入れるなど、必要に応じ学校運営に組織マネジメントの考え方も取り入れることも必要であると考えられる。」

個人営業のできない学校教員

- 公共性を担保するために大切なスクラム。
- 大枠としての目的を共有できてこそ、「仲間意識」が生まれる。 e.g. 雨傘モデル
- 「モンスター・ペアレント」と渡り合うためにも、学校が「まとまり」を持つ方向が有効かつ不可欠。

「二人以上の活動」の総和が、「それぞれの活動」の総和を上回るようにすること⇒経営(マネジメント)活動

学校はどんな組織体か

- 1. 学校は「デパート」か「スーパーマーケット」か。
ー「校務分掌」はどこまで？
ー個業の範囲は？
- 2. 学校組織ゆえの力をどのように生み出すか。
⇒1. 目標、2. 資源、3. 運営、4. コミュニケーションについて考えてみましょう。

1. 学校の組織目的・目標とは

- 勤務校の学校教育目標を述べてみましょう。
- その目標のもとでやるべきことは明らかですね。
- また他の職員は、目標とその具体化について、どのように理解、了解しているのでしょうか。

いまなお、多くの学校は次のようでは？

- 「生きる力を大切にする子の育成、心豊かにたくましく解決する子 学び合いを楽しむ子(知) ふれあいを豊かにする子(徳) 体をきたえあう子(体)」(札幌市立美しが丘緑小学校)
- 「質実剛健の精神に徹して、自律的に練成しよう。創造開発の信念に徹して、自主的に学習しよう。協同進取の日々に徹して、民主的に生活しよう。」(大阪府立豊中高校、実践指針)
- ⇒目標を達成しようとするのは誰か。
- ⇒教職員の、学校のすべきことは何か。

具体化される学校教育目標

- 学校教育目標は、教職員の取組目標の形で書かれています。子ども・保護者・教職員のニーズをもとにして考え、「GOL」「健康」「コミュニケーション」「交流」の4つを学校教育目標の柱として考えました。

学校教育目標

・自分のもっている力を発揮して、楽しく生活ができるようにします。
この項目は、学校教育目標の中心となる項目です。日々楽しく生活する中で、子どもたち一人ひとりが持っている力や可能性が十分発揮できるよう、支援していきます。

・健康で安全な生活を送れるようにします。
様々な教育活動を行う上で、健康で安全な生活は基盤となります。そこで、教育活動全般にわたり、健康と安全を大切にしていきます。

・気持ちや要求を伝えようとする意欲を育み、表現を豊かにしていきます。
気持ちの通じ合いの中で、子どもたちが自分からコミュニケーションをとろうとする意欲を育てることは、とても大切なことです。それぞれの得意な方法で、すすんで意欲を伝えられるように支援していきます。

・ふれあいや体験を大切にして、地域社会の中で豊かに生きていくことができるように支援していきます。
ここでの「交流」とは、友だちや教師などの身近な人から、いろいろな場面でふれあうすべての人たちのふれあいを意味しています。活動を広げていきたくさんのふれあいを体験することで、心豊かに生きていけるよう支援していきます。

(横浜市立東根野養護学校)

学校の使命(mission)と展望(vision)

- どんな価値を実現するために、あなたの学校は存在しているのでしょうか[この学校がなくなれば、誰がどんな風に困ると思いますか]。
- 短期的そして中期的にその学校で目指されているのは、どんなことですか。そのために各職員はどんな活躍をするつもりですか。
- そして、目標を実現するために必要な資源の状況は、どのようですか。

2. 学校の資源の状況をさぐる

- 新たにみなさんの学校に転任した教職員に、自分の学校を取り巻く環境の特徴ー強みと弱み、あるいはチャンスや脅威ーを説明してみましよう。
- どんな特徴が挙げられますか。学校内だけでなく、学区地域ほかについても述べてください。
- こうした得手・不得手、あるいは有利、不利を持つ学校として、何ができるでしょうか、また何が課題になっていると考えますか。

学校にとっての資源

- 学校はどのような資源(resource)をもって活動をしようとしているのだろうか。
- 長らく、3M(man,material,money)と言われてきましたが、現在は、これらに加えて情報、時間、空間などが挙げられるでしょう。

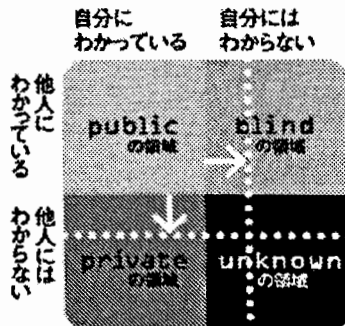
SWOT分析の枠組み

	内部	外部
プラス	強み (Strength)	機会 (Opportunity)
マイナス	弱み (Weakness)	脅威 (Threat)

この作業を通じて気づけること

- 学校内にどのような特徴や問題があるでしょう。また、学校外にどのようなチャンスや配慮すべき点があるでしょう。
- 人、もの、お金、情報などいろいろな環境について思い当たることを書き出してみましよう。
- 自分が知らなかったのに他者が知っていることはありましたか。またその反対は。
- 自分の評価と他者の評価はどこが同じでまた違っているでしょう。またそれはなぜでしょう。

ジョハリの窓



組織の、個人の資源を探索、発見し、育てる

- 教職員の「パワーアップ」とは何か。
- 「基礎トレーニング」と「実戦」(実践)との関係はどんなふうか。
- たとえば、言葉のトレーニングについてどう考えればよいだろうか。

児童・生徒、同僚に注がれる教職員の視線や声(大きさ、抑揚、リズム)はどうだろうか。

- 奈良県王寺町の奈良県立王寺工業高校で2005年7月28日、1年生の男子生徒は夏休みの補習授業に参加した。補習が終わって帰宅しようとした際に生徒は、体育担当の男性教諭(38)に呼び止められた。教諭は生徒に対し「服装が悪い」などとして約1時間にわたって顔面などを十数回殴る暴行を加えた。生徒が倒れたところをさらに引きずり起こして殴るなど、教諭の暴行は悪質なものであった。その間、生徒は無抵抗だった。教諭の暴行の後、生徒の顔が腫れ、また生徒は精神的な症状を発症して不登校になった。

生徒の家族は学校側に抗議。学校側は謝罪したものの、家族側は「形ばかりの謝罪で納得できない」として謝罪を拒否。また学校側は、教諭の暴力について奈良県教育委員会に報告していなかった。生徒は精神的ショックから不登校状態が続いたため、2006年2月に退学を余儀なくされ、カウンセリングを続けているという。

生徒側は2006年7月をめどに民事訴訟を起こす方針で、学校側の対応次第では刑事告発も検討するとしている。2006年9月に生徒側と学校側との和解が成立したという。奈良県教育委員会は2006年11月2日、この教諭を戒告処分にした。(体罰データベース、より)

- 東京都北区の東京都立王子工業高校で2005年7月5日午前9時半頃、期末試験の最中に居眠りをしていた男子生徒に対して、試験監督の男性教諭(45)が「カッとなった」などとして生徒の腕にライターの火を近づけた。生徒は熱さで目を覚まし、腕に軽いやけどを負った。

- 教諭はその場で口頭で謝罪した上、試験終了後にこの生徒を呼び出し、謝罪金と称して現金2000円を渡し、「これで飯でも食ってくれ」などと発言したという。

同僚職員の職能について検討してみましょう。

- 現任校の職員の得手と不得手、可能性と阻害要因は何だと思えますか。
- どんな点で伸びれば、もっとよい仕事ができると思えますか。
- 個人でやるべきこと(やれること)、分掌単位や学校全体でやるべきこと(やれること)の区別はできそうですか。
⇒教育資源の価値(「基礎トレ」と「実践力」)を高めるために、どんなことが必要だと思えますか。

資源としての教職員管理と支援

教職員名	山田和男
職位等	教務主任
経験年数	19年(本校での経験年数は4年)
昨年度の特徴	校内研究にて実践面での牽引役を担った。
主担当教科	数学
担当授業時数	18時間(うちTTが3時間)
得意な分掌	企画・立案面でうまく進めることができる。
苦手な分掌	機器の扱いに不慣れである。
今年度の目標	学校内の情報を広く収集し、全体に環流させること。
コミュニケーション	どの職員とも気さくに話し合いができる。
会議	生産的な方向で議論を方向づけられる。
健康	おおむね良好。
やりがい	授業よりも、職場での和やかな人間関係
通勤手段・時間	自動車で30分。

教員個人を対象にSWOT分析を試みてはどうだろうか。

Strength 強み ・経験が長くオールラウンド型である。 ・丁寧にねばり強く遂行できる。	Opportunity 機会 ・組織論に関する研修に参加したいと考えている。 ・新たな連携事業の担い手となってくれる。
Weakness 弱み ・人に任せることがなかなかできない。 ・感情的に過ぎる表現がままあり、信望を得きっていない。	Threat 脅威 ・家庭の事情で時間的拘束がやや強い。 ・健康面に少し不安あり。

教育職員としての得意と苦手を知る

自信の程度と活用の度合を確かめる

資源状況を知る

ーコストを考えて重点化をする

- 学校にとって一番の資源は何でしょう。
ー「教育は人なり」の含意
- 資源をいかに活用することが、費用対効果(cost performance)を高めるでしょうか。
- 「もったいない」資源の使い方をしていないでしょうか。
- 単位時間あたりのコスト、資源の保持と開発という観点をどのくらい持っていますか。

区 分	要 額		対前年度増減率		指 針		
	平成15年度	平成14年度	平成15年度	平成14年度	平成15年度	平成14年度	
幼稚園	705,796 (671,076)	738,824 (699,564)	△ 4.4 (△ 4.1)	△ 1.8 (△ 1.8)	78 (79)	80 (81)	
小学校	906,892 (846,080)	923,566 (859,175)	△ 1.5 (△ 1.5)	0.4 (0.5)	100 (100)	100 (100)	
中学校	1,028,602 (949,417)	1,027,878 (940,553)	0.1 (△ 0.0)	2.5 (2.5)	113 (111)	111 (109)	
盲・聾・養護学校	9,134,647 (8,751,427)	9,107,237 (8,788,831)	0.3 (△ 0.5)	△ 2.0 (△ 2.1)	1,004 (1,034)	988 (1,024)	
高等学校	全日制課程	1,138,046 (1,021,210)	1,157,388 (1,039,148)	△ 1.7 (△ 1.2)	2.5 (△ 0.0)	126 (121)	125 (120)
	定時制課程	1,773,523 (1,686,225)	1,840,727 (1,730,910)	△ 3.7 (△ 2.0)	△ 1.1 (△ 4.0)	195 (200)	199 (201)
	通信制課程	218,191 (214,808)	211,924 (211,220)	3.0 (1.8)	△ 5.5 (△ 4.3)	24 (25)	23 (25)
中等教育学校	3,227,215 (3,030,105)	2,420,345 (2,076,176)	33.3 (45.9)	…	356 (358)	282 (242)	
専修学校	1,400,117 (1,268,415)	1,323,570 (1,178,980)	5.8 (8.8)	△ 0.4 (△ 1.0)	154 (142)	143 (137)	
各種学校	1,357,296 (1,314,568)	1,203,237 (1,161,220)	12.8 (13.2)	△ 8.8 (△ 7.5)	148 (165)	130 (135)	
高等専門学校	1,946,256 (1,758,830)	1,890,942 (1,735,849)	3.0 (1.2)	△ 3.1 (△ 4.9)	214 (208)	205 (202)	

(注) 1 教育費には(国庫交付金)PTA会交付金の必要に認められたい交付金を含んでゐる。
 2 (注) 1 内は、増減率を算出した割合である。

(注) 1. 教育費には(国庫)国庫費及びPTA寄付金等の公費に組み入れられない寄付金を含んでいない。
 2. ()内は、増減率(増減率)を計算した数値である。
 3. 数値は小数点の第2位まで四捨五入したものである。

2004年度決算分、都立学校バランスシートの作成について 2006.1 東京都教育庁

- (1)生徒一人当たりのコスト ※総コストを生徒数で除した
 高等学校:約127万8千円
 盲・ろう・養護学校:約829万6千円
- (2)授業1時限当たりのコスト ※総コストを年間総授業時数で除した
 高等学校:約4万4千円
 盲・ろう・養護学校:約3万3千円
- (3)行政コスト計算書による財務状況
 2)人件費コスト比率
 高等学校:76.80%
 盲・ろう・養護学校:81.52%

「平均給料月額」(全地方公共団体)
 (総務省「地方公務員の給与水準」2006年)

- 全職種、359814円(43.0歳)
- 一般行政職、352399円(43.5歳)
- 技能労務職、325802円(46.5歳)
- 高等学校教育職、404900円(44.1歳)
- 小・中学校教育職、392720円(43.7歳)
- 警察職、352192円(41.0歳)
- ☆平均給料月額とは、給料月額に給料の調整額及び教職調整額を加えたもの。

メンター(mentor)とメンティー(mentee)
ーサポートしてくれる、サポートできる

資源の価値を高める

ーキャリアを振り返る、生かす、他者に還元する

- 教職員は、今までどんな仕事を経験してきたのだろうか。
- かれらはこれから3年のうちに、どんなことを成し遂げたいと思っているのだろうか。
- かれらが頼りにしている人は誰でしょう。また、誰をサポートできる立場にあると思いますか。

3. 学校の組織運営を考える

- 昨年度の「学校評価」はどのように生かされていますか。
- 「目標」と「実現」の間にある多くのプロセスに、どのように向かえばよいのだろう。
- 「前年度どおり」「一度決めたら変更しない」「やりっぱなしだ」ーこんなふうにならないために、どんな工夫ができるでしょう。

PDCAサイクルを持つことで、いま何をどうしているのか、どうすべきかを明らかにできる。



Plan cf.ラテン語 plānus
古フランス語「建物の平面図」, plain, plane

- 経営が「環境への適応」であるならば、あらかじめすべてを計画しておくことは経営の意味と矛盾するし、児童生徒という非経営メンバーを含まねばならない「不完全な」組織である学校にとって、計画化することは基本的に困難である。
- 経営主体にとって環境は制御できず、多分の蓋然性(probability)に従わざるを得ないからこそ「学習する組織」(learning organization)であることの意義が認められる。

- つまり、経営にとって計画とは、第一に現状を診断する、すなわち実践に向けたメドを持つという点において、第二に小規模な統制という点において意味を持ちうる過程である。
- 「計画は学習を排除するが、創発(emergent)は統制を排除する…。学習と統制は結びついていなければならない」(Henry Mintzberg)

Do ーその時間と重点

- 学校教育において実践とは、短時間のうちに意思決定しなければならない一方、他方で決定の妥当性について判断しにくいという性格を持っている。
- つまり、実践とは幅をもった行為可能性の一つを選び取ることであり、また次の段階の反省(Check)という過程を不可避にしている。

- ここで実践とは、教職員自らが何をするかであり、児童生徒に「させること」ではない。
- 「忙しくて他のことができない」というのは、既存の関与(commitment)に引きずられ、革新(Innovation)できていない証でもある。
- 「何かをする」ということは「何かをしない」ということでもあることを理解して、関与のあり方を問いなおすこと、つまり優先順位をつけることが求められる。

Check 一点検と反省

- よって、よりよい実践をするためには、教育主体が多くの選択肢を持っていること、そして反省的思考に秀でていることが大切である。
- そのために教員には、こだわり(commitment)を保ちつつこれを捨てられる強さとメタ認知(meta-cognition)に秀でていることが求められる。これらのためのトレーニングの機会は教職にとって必須である。

Action

- 実践した結果を点検、評価できれば、今後、何をどうすればよいか明らかになる。この点で、「うまくできたのか、そうでないのか」そして「それはどうしてか」を問うことが求められる。

計画(Plan)

ー資源状況を踏まえて、活動を重点化する

- 評価は診断として活動の最初にまず求められる。
- 現状分析としての評価に即して、活動の優先順位をつける。
- ここでscrap and build が問われる。「前年どおり」「あれもこれも」にならないようにする。

資源の状況をもとに手だてを考える

効果と着手の度合を勘案してプランを立てる

実施(Do)－計画に即して

- 「計画を立てたらおしまい」にならないために必要な計画の立て方。
- ただし、点検・修正を必ず念頭に置くこと。
- 中心は教職員が何をするか、しないかであり、生徒に「～させる」ことではない。

点検・修正(Check)－活動をモニターする

- 「決めたら何が何でもやる」のではない。
- 修正するためには情報が必要である。つまり、点検もまた評価である。
- 修正することは次回の計画につながる。

教育長から各学校長に対する、学年半ばの振り返りのための質問(2003.1)

(吉田新一郎「校長先生という仕事」平凡社新書、2005、p.57)

- 1. 今年度掲げた目標のどのくらいが今日までに達成されていますか。
- 2. 今年度、特に改善したいと思っていることは何ですか。それらに対しては、どのような方法を使っていますか。
- 3. テクノロジーを授業に活用することに対するあなたのビジョンは何ですか。
- 4. 今年度の教員研修で優先順位が高いものは何ですか。

- 5. 生徒や教師や親や中学校とどのようなコミュニケーションをとってきましたか。
- 6. 学校の文化と校舎をどのように評価し、改善してきましたか。
- 7. カリキュラムや教え方について何か気になることはありますか。
- 8. あなたが集めている評価のデータは教え方にどのような影響を及ぼしていますか。
- 9. 人事面で何か気になっていることはありますか。それとも、教職員はみんないい仕事をしていますか。

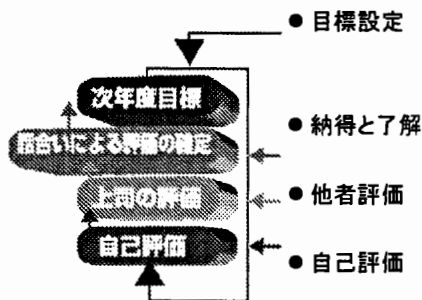
改善(Action)－フィードバック

- 改善とは見直しをして、できるところから、できることを。

教育活動においてPDCAあるいはPDS(Plan-Do-See)を踏まえるとは

- 計画とは、まず現状分析のこと。
- 実施は、計画に即しているかを確認しながら。
- 点検・修正は、やったこととその結果とを区別して。
- フィードバックは次の活動を変えるために。
- 客観的だけでなく主観的な面も大切に。
 - 達成(achievement)と満足(satisfaction)
 - 教職員のやりがい、児童生徒のやりがい

目標による管理 (Management by Objectives
through Self Control)
cf.「ノルマによる管理」



どのように管理すれば成果が上がるか

- XY理論 (D.マクレガー)...X理論に比べY理論のマネジメントスタイルをもつ管理者の部門の業績がより優れていることを主張。
- X理論...人間は元来、非主体的で怠け者だから、厳しく賞罰で管理すべき。
- Y理論...人間は主体性を持って努力し、責任を取れる存在だから、そのための条件を整備すべき。

4. コミュニケーションとしての学校経営

- 学校経営を効果的に進めていくには、どのようなコミュニケーションが求められるでしょう。
- 「ほうれんそう」以外の要素について考えてみましょう。

ホックシーールド Arlie R.Hochschild『管理される心—感情が商品になるとき』石川准・室伏亜希訳、世界思想社、2000(原著は、The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling, University of California Press, 1983)

こんな時、
どんな感情が行き交っているのだろう。

- 山口県立宇部工業高校でソフトテニス部の顧問を務めていた男性実習助手(34)は、部活動指導中に部員に対して日常的に「体罰」を繰り返していた。
- 確認されたものだけでも、2007年4月から5月にかけて、練習試合などの際に計6人に対して平手打ちを加えたり傘で突くなどした。
- 目撃者が山口県教育委員会に連絡して事件が発覚。目撃者は連絡の際、「体罰」の証拠映像を提出したという。山口県教育委員会は2007年6月22日、この実習助手を減給処分にした。(体罰データベース、より)

「やる気」にさせる仕事とは

- 「気」という曖昧なもの、しかし多用される言葉
⇒ 元気、気力、気持ち、気分、嫌気、負けん気
- 自分だけでは完結しない仕事
- 「相手に合わせ、促す」仕事の特徴とは
- 教育とは、最後には相手に委ねざるを得ない営み
- 相手の気持ち、感情をいかに揺り動かすか

●メタ認知(meta-cognition)とは

メタとはギリシャ語を語源とする「後～、共～、超～、変化した」という意味であり、メタ認知とは、認知に対する認知、つまり、見る、聞く、話す、書く、わかる等の認知活動を、その背後から捉える認知のことである。これは認知を対象化することであり、振り返り・省察・反省(リフレクション)や相対化(見つめ直し・突き放し)という言葉でも表現されうる。ある認知を行っている自分を監視(モニター)し、統制(コントロール)するメタ認知は、思いこみや決めつけ、繰り返しの同一思考などから主体を自由にし、「内なる自分」との対話を通じてより柔軟な事態への対応を可能にする。(『総合教育・最新教育基本用語2003年度版』小学館)

これは何のことでしょう。

- 新聞の方が雑誌よりも適しているでしょう。海岸の方が通りよりいいでしょう。最初は歩くよりも走った方がいいでしょう。何度かやってみないとうまいかないかもしれません。多少技術は要りますが、覚えるのは難しくありません。小さな子ども達も楽しめますし、いったんうまいけばダメになることはまずありません。鳥が近づいてくることはめったにありません。でも雨はすぐしみこみます。同じことを多くの人がしても問題が起こりません。広い場所が必要なのです。

やる気と笑い、楽しさ、ユーモア

- その集団へのこだわりはいかに生まれるか。
- 共通体験、共感―「わかる、わかる」。
- 笑いは人を結びつける。
- 認め合う関係、許し合う関係を促す。
- 「まじめな雑談」(柴田昌治)のできる環境を。

「悲しいとき～」(いつもここから)

- 何気ないことに着目する鋭い観察力、他者を信頼する自己開示、相手を楽しませる表現力、状況を笑う包容力、ゆとり…



「悲しいとき～」生徒編

- 授業中に寝てしまい、起きたら教室に誰もいなかったとき
- 真面目に答えているのに、「真面目に答えて」と言われている人を見たとき
- マラソン大会で「一緒に走ろう」と言っていた奴が、スタートと同時にダッシュしたとき
- 朝学校に来たら、机に花瓶が置いてあったとき

相対化、脱構築とコミュニケーション、笑い

- 柔軟な発想は、他者との高いコミュニケーション能力(臨機応変、包容、寛容、新しいことへの興味・関心など)によって裏打ちされる。
- 既存の枠組みをひとつ客観視できれば、異なる考えを受け止め、部分的に受け入れる、さらにはそれを楽しむ余裕が生まれる。

笑い・ユーモアをめぐる箴言

- ユーモアは世界に対抗するもうひとつの武器である(メル ブルックス)
- ユーモアのセンス以上に人間にとって厳粛なものはない(マーク ヴァンドーレン)
- 愉快なことを理解できない人間に世の中の深刻な事柄がわかるはずがない(ウィンストン チャーチル)
- 幼い子供がはじめて笑う時、その笑いはまったくなにも表わしていない。幸福だから笑うのではない。むしろ、笑うから幸福なのだとわたしは言いたい。(アラン)

笑いが健康にもたらす効用

- 呼吸の促進
- 免疫機能の向上
- 認知の変容
- ⇒行動の変容
- 感情の共有
- ⇒共感の体験

コミュニケーション能力を高める

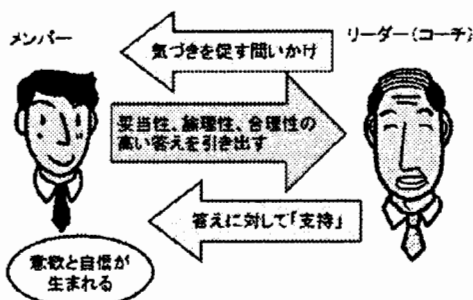
- よく伝わる声であるよう、よく体調を管理する。
- 「言いたいように」ではなく「聴きたくるよう」に言う。⇒コミュニケーションの結果は(残念ながら)相手に委ねられざるを得ない。
cf.「何度同じことを言ったらわかるんだ!」
- 適切なメディアを用いる。
- 言語と非言語の組み合わせで考える。⇒「目は口ほどに…」
- 文脈を共有しているかを確認する。

職員にどのような眼差しを注ぐか

- 「やる気になれ」といっても仕方がない。
- 「やる気」を出すのは本人でしかない。そのためどのように働きかけるのか。
⇒気づきを促す。
⇒情報を与える、既存の理解を揺るがす。
⇒これまでを認めつつ、励ます。
☆まさに教育の専門家としての面目躍如ではないか。

コーチングの考え方

「指示」しない「支持」のコーチング



プレゼンテーション「長い、つまらない」ではなく、「わかる、おもしろい」話を

- 今度、入学を考えている保護者向けに学校説明会が行われると仮定します。そこへ学校代表者として、出かけてください。
 - 1. 学校のメンバー(教職員、児童生徒)の概況、魅力および課題
 - 2. 現在の学校の目標と進展状況
 - 3. さいごに、保護者を惹きつけたい自分の取り組みとそれをめぐるエピソード
- について、3分程度で語ってください。

工 業 電 機 技 術 學 校

学校名	学校概要	教育方針(基本理念)	専門性指導の特色	進路指導の要領	部活動のあり方	備考(その他の特色)
長崎工業高校	・学科数8学科 ・生徒数956名 (内男子455名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 8/96	○「ものづくり」「資格取得」のキーワードを掲げ指導をしている。	・3年次から「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に
熊本工業高校	・学科数10学科 ・生徒数1100名 (内男子550名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 17/128	○「ものづくり」「進路」のキーワードを掲げ指導をしている。	・昨年度「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に
佐土原高校	・学科数4学科 ・生徒数623名 (内男子309名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 27/115	○進路を重視する「進路」のキーワードを掲げ指導をしている。	・昨年度「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に
宇都宮工業高校	・学科数7学科 ・生徒数1100名 (内男子550名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 19名/87名	○進路を重視する「進路」のキーワードを掲げ指導をしている。	・昨年度「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に
高崎工業高校	・学科数6学科 ・生徒数811名 (内男子411名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 5名/49名	○進路を重視する「進路」のキーワードを掲げ指導をしている。	・昨年度「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に
前橋工業高校	・学科数6学科 ・生徒数824名 (内男子412名) ・就職進学率68.32% ・国公立進学率合格者 H18実績: 8名/70名	○進路を重視する「進路」のキーワードを掲げ指導をしている。	・昨年度「認定」を推進している。 ・高卒認定試験の合格率が、県内・外比率は同数	・1・2年は週3回、3年は週5回 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進 ・進路指導の要領は、進路指導の要領を優先的に進	・朝練習はほとんど ・自主練習は進路希望 ・放課後は自主練習 ・部活動は参加	・インターンシップは県内就職希望者を中心に ・80%の企業が、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に ・例として、大会の実施(独創性・創造性を培う)に

学校名	学校概要	教育方針(基本理念)	専門性指導の特色	進学指導の要領	部活動のあり方	備考(その他の特色)
岡谷工業高校	・学科数5学科 ・生徒数599人 ・(内)実生2人 ・就職立派(50:50) ・H18実績合格者 ・H18実績:5/110	・校訓「至誠一貫」 ・校訓に力を入れている ・地域が望む取り組み ・「ものづくり」のイメージ ・進学指導力を入れている	・インターンシップへの取組 ・平成20年度から2年生対象に全員「ものづくりエデュケーション」に向けて「エデュソン」ものづくりに参加。	・特になし ・科での指導、必要とされる教科での指導	・全員入部制ではない ・8割が入部 ・活動はいい人	・中学校への取り組み ・専門高校(岡谷工業高校)との連携 ・総合的な学習の時間 ・研究3単位に代替
長野工業高校	・学科数7学科 ・生徒数839人 ・(内)実生1人 ・就職立派(66%) ・国公立合格者 ・H18実績:19/189 ・定時制2学科	・「日本一の工業」を目標に ・「日本一の工業」を目標に ・「日本一の工業」を目標に ・「日本一の工業」を目標に	・取組 ・インターンシップへの取組 ・平成20年度から2年生対象に全員「ものづくりエデュケーション」に向けて「エデュソン」ものづくりに参加。	・特になし ・科での指導、必要とされる教科での指導	・全員入部制ではない ・8割が入部 ・活動はいい人	・中学校への取り組み ・専門高校(岡谷工業高校)との連携 ・総合的な学習の時間 ・研究3単位に代替

Ⅱ－⑧ 大学訪問

I 大学視察訪問報告概要

全体研修会 H19.09.26

1. 目的

- (1) スーパー甲府工業構想の3本柱である、「専門教科の深化を図る」の実践、「工業系大学進学を目指した教育」の実践、を実現するための入試状況調査
- (2) 工業系大学、特に、近県の国立大学に将来十数名程度の生徒を合格させるための推薦・AO入試状況調査
- (3) 国立大学推薦・AO入試に対応した、平成20年度教育課程編成に向けての調査

2. 訪問日時・大学 等

日 時	大 学	訪問者	種 類
6月26日	信州大学	校長、飯嶋	大学訪問
6月28日	富山大学	校長、飯嶋	大学訪問
6月29日	長岡技術科学大学	校長、飯嶋	大学訪問
7月 2日	静岡大学	校長、飯嶋	大学訪問
8月24日	山梨大学	飯嶋・楠	入試説明会

3. 調査内容（推薦・AO入試について）

- (1) 募集人員、出願数、合格者数
- (2) 出願資格、推薦条件
- (3) 出願期間、出願書類
- (4) 選考日
- (5) 選考内容（推薦・AO試験内容）
- (6) 過去問題
- (7) オープンキャンパス
- (8) リクルート
- (9) その他

Ⅱ-1 信州大学 視察訪問報告 全体研修会 H19.09.26

工学部 推薦入学特別選抜 専門高校卒に対する推薦について

1. 訪問者 校長 戸田 泰明 3学年主任 飯嶋 清二
2. 訪問日時 平成19年 6月26日(火) 11:20～
3. 住所 長野県長野市若里 4-17-1 工学部キャンパス
〒380-8553 Tel 026-269-5053
FAX 026-269-5061
4. 面会者 信州大学工学部電気電子工学科
学部長補佐(広報担当) 教授 伊藤 稔 様
5. 平成19年度 信州大学工学部推薦入学 高等学校の専門高校に対する
募集人数及び出願者数・合格者数(平成18年11月27日現在)
(センター試験を課さない特別推薦入試選抜について)

	募集人員	出願者	倍率	実質倍率	合格者数
機械システム工学科	2	9	4.5	4.5	2
電気電子工学科	2	14	7	2.8	5
社会開発工学科	1	3	3	3	1
物質工学科	2	4	2	1.3	3
情報工学科	2	13	6.5	1.8	7
環境機能工学科	1	4	4	2	2
合計	10	47	4.7	2.0	20

*1年次は、松本キャンパス、2年次より長野キャンパス

*社会開発工学科・・・2年次より環境都市コース(土木系)、建築コースに分かれる

*物質工学科・・・有機化学、応用物理化学、無機・分析化学、

*環境機能工学科・・・材料やエネルギーの有効利用、エコテクノロジー等

6. 出願資格及び推薦条件(昨年度の条件)

次の各号に該当し、高等学校長が責任を持って推薦できる方

- (1) 高等学校を平成19年3月卒業見込みの方
- (2) 高等学校の学習成績が優秀な方
- (3) 次のいずれかに該当する方
 - ①高等学校での教科で特に誇れる良い成績の科目がある方
 - ②課外活動などで特に優れた成績を修めた方
 - ③特に誇れる資格がある方
 - ④その他、特筆すべき優れた活動をした方
- (4) 合格した場合に入学を確約できる方

(注) 機械システム工学科、電気電子工学科、社会開発工学科及び情報工学科では
数学Ⅲ及び物理を履修していることが望ましい。なお、物質工学科及び環境
機能工学科では、数学Ⅲ、物理及び化学を履修していることが望ましい。

7. 出願期間(昨年度のもの)

平成18年11月1日(水)～7日(火)まで

(信州大学)

8. 出願書類等について

出願書類の中に、「自己申告書」と呼ばれるものがある。これは、受験者本人が志望の動機、目的意識、大学卒業後の人生、資格、部活動、ボランティア活動、学習活動等について約600字ほどで書く用紙がある。この文章の中で、いかに自分をPRできるかが重要である

* 調査書の中に、数学Ⅲを履修していることを赤線で強調すると良い。

9. 選考日（昨年度のもの）

（合格発表11月27日）

平成18年11月20日（月） 午前9：00～

約1時間で3教科（英語、数学、物理：電気系は電気の問題、それ以外は力学）の試験を行う。その後、約15分間の休憩の後、

午前10：30～面接（面接官3人対受験者1名）3教科の試験のことについて約5分、その他志望動機等について15分の面接を行い書類との総合評価で合否を決定する。

（例）

* 山梨大学があるのになぜ信州大学を選んだか？（志望の動機を明確に）

* 学部を卒業したらどうするか？（大学院に行って勉強したい）→好印象を得る

* 自分をどれだけPRできるか？

10. 工学部オープンキャンパスについて

学科別ガイダンス、学科見学会及び進路相談会

7月29日（日）午前の部 9：30から12：00

午後の部 13：00から15：30

希望者は、これに参加すると、推薦試験でどのような内容が行われるか教えてくれるとのこと

11. 今年度の学部改変及び推薦人数の変更点

（1）1高校1学科複数名の推薦を許可する

（2）機械システム工学科は、募集人員2人から4人に変更（文科省へ申請中）

（3）社会開発工学科を土木工学科募集人員2名、建築工学科募集人員1名に変更（文科省に申請中）、認められない場合は、社会開発工学科の募集人員を3名にする。

12. その他

（1）専門高校推薦の合格者の90パーセントは、長野県内12校の工業高校の生徒。特に、長野工業高校の生徒の合格率は高い。（合格のノウハウを持っている）

（2）長野県内の工業高校は、中学校へ信州大学合格のPRを行い、良い生徒の獲得に使っている。

（3）学部生の6～7割が大学院に進学している。大学院生の98パーセントは、7月には就職が内定している。優良企業が長野県内に多く、就職は非常にいい。（エプソン、オリンパス、等）

（4）専門高校推薦で合格した生徒は、高校在学中の12月下旬から3月にかけて入学前教育を行う（英、数、物、化）

（5）入学後 物理、数学の統一試験があり、4月から7月にかけて習熟度クラス編成で物理、数学系統の勉強を行う。

（6）信州大学全体の学生数において、長野県出身者は、約33%、現在、山梨県出身者は、約40名ほど

以上

（信州大学）

Ⅱ-2 富山大学 視察訪問報告 全体研修会 H19.09.26

工学部 推薦入学特別選抜 専門高校卒に対する推薦について

1. 訪問者 校長 戸田 泰明 3学年主任 飯嶋 清二
2. 訪問日時 平成19年 6月28日(木) 15:30～
3. 住所 富山県富山市五福 3190 五福キャンパス
〒930-8555 Tel 076-445-6698
FAX 076-445-6705
4. 面会者 富山大学大学院理工学研究部 理工学教育部長 工学部長
理学博士 教授 森 克徳 様
工学部教務係長 永田 義則 様
5. 平成19年度 富山大学工学部推薦入学 高等学校の専門高校に対する
募集人数及び出願者数・合格者数
(センター試験を課さない特別推薦入試選抜について)

	募集人員	出願者数	倍率	実質倍率	合格者数
電気電子システム工学科	4	10	2.5	2.0	5
知能情報工学科	4	8	2	1.3	6
機械知能システム工学科	4	9	2.2	2.2	4
物質生命システム工学科	7	7	1	1	7
合 計	19	34	1.8	1.5	22

* 知能情報工学科は次の3講座に分かれる

- (1) 知能システム工学講座・システム工学、パターン情報処理、知識情報処理、アルゴリズム解析
- (2) マルチモーダル情報工学講座・光・視聴情報工学、神経系情報処理
- (3) メディア情報工学・情報通信とその処理、ヒューマン情報処理、符号化情報学

* 機械知能システム工学科は次の3講座に分かれる

- (1) 設計生産工学講座・固体力学、強度設計工学、生産精密工学、機能材料加工学
- (2) エネルギー・環境工学講座・熱工学、流体工学、環境・数理学
- (3) 機械制御情報工学講座・知能機械学、制御システム工学、機械情報計測、応用機械情報

* 物質生命システム工学科は次の4講座に分かれる

- (1) 応用化学講座・資源エネルギー工学、精密有機合成化学 等
- (2) プロセス工学講座・粉体プロセス工学、移動プロセス工学 等
- (3) 生命工学講座・細胞機能工学、細胞物性工学、遺伝情報工学 等
- (4) 材料工学講座・材料素形制御工学、材料機能制御工学 等

(富山大学)

6. 出願資格及び推薦条件（昨年度の条件）

高等学校を平成19年3月卒業見込みの者で、次の各号に該当する者

- (1) 人物、学力ともに優れ、かつ、勉学意識が旺盛であり、学校長が責任を持って推薦する者
- (2) 高等学校等において、次に定める科目を履修した者
 - イ. 専門教育を主とする学科
 - 工業に関する教科・科目を20単位以上
- (3) 合格した場合に入学が確約できる者
- (4) 推薦人員は、専門教育を主とする学科は、1高等学校につき、募集する学科ごとに1人とする。

7. 出願期間（昨年度のもの）

平成18年11月6日（月）～10日（金）まで

（選抜日 平成18年11月29日、合格発表12月8日）

8. 出願書類等について

出願書類の中に、「志願理由書」と呼ばれるものがある。これは、受験者本人が志望の動機、目的意識、大学卒業後の人生、資格、部活動、ボランティア活動、学習活動 等について書く用紙がある。この文章の中で、いかに自分をPRできるかが重要である

9. 選考日（昨年度のもの）

平成18年11月29日（水） 午前10:00～ 五福キャンパス

* 小論文 10:30～12:00 90分間

平成17年度 出題（800字） 別紙1参照

平成18年度 出題（800字） 別紙2参照

平成19年度 出題（各200字） 別紙3参照

* 面接 13:00～（1人約20分：各学科ごとに面接官質問内容が違う）

面接の中で、基礎力（数学、物理、科学、英語）の内容について質問がある。

機械知能システム工学科は、小論文100点、面接（書類審査を含む）200点、合計300満点とし、その得点順ごとに判定する。

機械知能システム工学科以外の学科については、小論文100点、面接（書類審査を含む）100点、合計200満点とし、その得点順に判定する

10. 富山大学 大学説明会 五福キャンパス 工学部オープンキャンパスについて

平成19年8月7日（火）AM 9:30～12:20

希望者は、これに参加すると、各工学科の内容がわかる。

11. その他

- (1) 専門高校推薦の合格者の中には、地元工業高校の他、長野工業、岡谷工業の生徒がいる。
- (2) 学部生の6～7割が大学院に進学している。
- (3) 今年度の募集要項は、7月20日以降、入学試験書類は9月下旬
- (4) 入学後 1年次の前期に、数学、物理、科学の補習が8回ある。
- (5) 富山大学全体の学生数において、富山県出身者は、約30%である。

以上

（富山大学）

Ⅱ－⑨ (1)新時代に対応した高等学校教育改革推進事業

新時代に対応した高等学校教育改革推進事業の実践研究概要

都道府県名	山 梨 県
担当者所属・氏名	高校教育課 阿部邦彦
電話番号	0 5 5 - 2 2 3 - 1 7 6 6

1 研究内容について

学校名	山梨県立甲府工業高等学校
課 題	「多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善」 少子化や高学歴志向の影響で工業科単独校は減少傾向にあり、入学してくる生徒のニーズも多様になっている。こうした変化に対応するため、より高度な専門教育、工業系大学の進学を目指した教育及び部活動の活性化などを通して、生徒の自己実現をサポートするための工業教育の充実・改善が求められている。
実践研究の内容	学校評価や地元産業界のニーズ及び卒業生の実態調査をもとに、将来を見据えた生徒の自己実現の方法について研究する。具体的には「専門教科の深化を図る教育」、「工業系大学進学を目指した教育」、「部活動の活性化」を実現するための教育課程の開発と学校組織の改善及び高校入試への対応について研究・実践する。 (1)教育課程の開発について ①自由選択科目の設定(12単位)に向けた研究と実践 ②履修単位数の増加(現行90単位を94単位へ)に向けた研究と実施 ③2学期制の実施に向けた研究と実施 (2)高校入試への対応について ①現行の小学科単位の募集から一括くくり募集への検討 ②前期募集(自己推薦)の選考方法の検討 (3)学校組織の改善について ①生徒の自己実現をサポートするために、現行の縦型の組織から、プロジェクト型の学校運営組織の研究と新組織への改編 ②学校評価結果を学校改善へ生かすための手法及び組織の研究と実践
研究成果の評価方法	就職先及び進学先へのアンケート等による追跡調査や学校評価をもとに評価を行う。また、精度の高い評価方法についても検討していく。 ○専門教科の深化について ①ものづくりに関する各種大会等への参加と成績 ②各種資格取得状況 ③就職内容及び就職先での実態(卒業後の追跡調査を行う) ○工業系大学進学を目指した教育について ①国立大学への進学者数 ②大学進学後の中退者の減少(追跡調査を行う) ③大学進学者の大学院進学率(追跡調査を行う) ○部活動の活性化について ①成績不振者の減少 ②全国レベルの大会出場と成績
加配教員の役割	①企業の工業高校に対するニーズの調査及び卒業生の追跡調査(15日) ②教育課程の研究(15日) ③自由選択科目の実施(158日) ④94単位の実施(18日) ⑤プロジェクト型学校組織の研究(14日) 計 220日

1 学校の組織

(1) 新時代に対応した高等学校教育改革推進協議会の構成

氏 名	勤務先・職名等
榊原 禎宏	山梨大学教育人間科学部 教授
水口 義久	山梨大学大学院 教授
一瀬 茂夫	山梨県経営者協会 専務理事
戸田 泰明	県立甲府工業高校 校長
手塚 芳一	県立甲府工業高校 教頭
時田 透	県立甲府工業高校 教諭
土屋 淳	県立甲府工業高校 P T A会長
小池 逸朗	高校教育課 指導主事
遠藤 清文	高校教育課 指導主事

(2) 将来構想検討委員会の構成

委員長 戸田 泰明	校 長	長谷川琢也	研究研修主任
手塚 芳一	教 頭	中澤 透	情報システム主任
加賀美史朗	教 頭	長田 宇	機械科主任
佐野 武治	事 務 長	望月 裕	電気科主任
事務局 時田 透	総 務 主 任	大野 政彦	電子科主任
沓間 正	教 務 主 任	浅川 俊夫	建築科主任
三井 勇	生徒指導主事	志村 利治	土木科主任
中沢 稔	進路指導主事	河野 公昭	1 学年主任
山西 保久	生徒会主任	沢登 美接	2 学年主任
渡辺 勉	保健環境主任	飯嶋 清二	3 学年主任
岩下 道子	教育相談主任	伊東 雅人	教務副主任

事業名 項目	新時代に対応した高等学校教育改革推進事業	都道府県 指定都市名	山梨県		
H19における 役割・業務内容	「多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善」 少子化や高学歴志向の影響で工業科単独校減少傾向にあり、入学してくる生徒のニーズも多様になっている。こうした変化に対応するため、より高度な専門教育、工業系大学の進学を目指した教育、授業改善及び部活動の活性化などを通して、生徒の自己実現をサポートするための工業教育の充実・改善を進める。				
研究成果への功績	(1) 教育課程の開発として、3年間で12単位の自由選択科目の新設と生徒の企業実習を教育課程上に位置づけた。 (2) 入り口の部分で目的意識や修学意欲の高い生徒の獲得に向け、前期(自己推薦)入試選考に特技・個性表現による選抜を導入した。 (3) 生徒の自己実現サポート体制を確立し、学校運営組織を現行の縦型組織からプロジェクト型に改編した。結果として高度技術者を目指した国公立大学合格者が倍増した。 (4) 事業計画の立案・検討から運営について、校内の将来構想検討委員会で検討を行い、その成果の検証は、校内の全体研修会や各種発表会で行った。更に保護者や地域代表による外部評価委員会や学校評議委員会において検証している。				
継続希望	☒ 有 ・ 無	(無の場合)理由 :			
学校名	山梨県立甲府工業高等学校				
必要な理由	ようやく本事業の趣旨に沿って本校の取り組むべき方向が教職員に理解されてきたところであり、これから具体的な実践を展開していく必要がある。今まで以上に事業推進に係る企業や各種機関との連携促進が必要となる。また、自由選択科目を取り込んだ教育課程の実施が今年度から始まり、その検証も必要となる。 卒業生を対象とした追跡調査や工業教育に関する企業アンケートを実施し、それらの分析と検証を行い、効率の良い工業教育を目指す必要がある。				
H20における 役割・業務内容	日本の経済産業の基盤であり、一層の高度技術開発が求められる製造業界、その担い手として工業高校生への期待は高まっている。 事実、文部科学省と経済産業省が連携した「ものづくり人材育成推進事業」、そして、県政として山梨県知事の提唱する「地域産業を支える人材の育成」等々、工業系専門高校生への期待は大きい。しかも、求める個々の資質(人間性や技術・技能)は、将来の中堅技術者としての素養を備えた者でなければならない。 甲府工業高校は、山梨県工業教育の基幹校として名実ともにその役割を担ってきたし、上述の各事業についても牽引役として関わっている。 工業高校である本校が関わる本事業、その目標は、正しく文部科学省や経済産業省連携事業の趣旨であって、山梨県知事が提唱する「ものづくり人材の育成」に他ならない。 具体的な業務内容は、多様化した生徒の自己実現をサポートする工業教育の充実・改善を図り、少子化や高学歴志向を払拭し、より資質の高い生徒の入学を喚起し、そのニーズに応えられる工業教育を実践・展開する。				

事業名 項目	新時代に対応した高等学校教育改革推進事業	都道府県 指定都市名	山梨県		
実践研究の内容	生徒が、的確に将来を見据えて自己実現を図る方法について研究する。具体的には「授業研究、特に専門教科の進化を図る教育」、「工業系大学を目指した教育」、「部活動の強化」を実現するため、以下の三点について、研究・実践する。 (1) 教育課程の開発 (2) 目的意識の高い生徒獲得に向けての入学選考方法の改編、 (3) 生徒の自己実現をサポートする体制の確立。				
研究成果及び その評価方法	※平成20年1月23日時点での、具体的な成果をご記入ください。(参考資料を添付) 【研究成果】 (1) 教育課程の開発として、3年間で12単位の自由選択科目の新設と生徒の企業実習を教育課程上に位置づけた。 (2) 入り口の部分で目的意識や修学意欲の高い生徒の獲得に向け、前期(自己推薦)入試選考に特技・個性表現による選抜を導入した。 (3) 生徒の自己実現サポート体制を確立し、学校運営組織を現行の縦型組織からプロジェクト型に改編した。結果として高度技術者を目指した国公立大学合格者が倍増した。 【評価方法】 事業計画の立案・検討から運営について、校内の将来構想検討委員会で検討を行い、その成果の検証は、校内の全体研修会や各種発表会で行った。更に保護者や地域代表による外部評価委員会や学校評議委員会において検証している。				
H19経費		予算額	執行済額	執行予定額	不用見込額
	【 諸 謝 金 】	240,000		60,000	180,000
	【 委員等旅費 】	371,440		70,000	301,440
	【 教職員研修費 】	109,800		109,800	0
	合 計	721,240	0	239,800	481,440
[H20.1.23現在]					
継続希望	⑦・無	理由 : ようやく事業内容の構築が成されたところであり、これからが実践・展開のときである。本事業の趣旨・目的達成に向け、これまで以上に先進的取り組み実践校の視察や事業推進に係る企業や各種機関との連携促進が必要である。			
H20所要額		所要額	所要額内訳		
	合 計	284,000			
	(内訳)				
	【 諸 謝 金 】	100,000	外部講師謝金 5人 × 1回 × @20,000円 = 100,000円		
	【 委員等旅費 】	110,000	研修講師旅費 5人 × 1回 × @2,000円 = 10,000円 先進校視察 2人 × 1回 × @40,000円 = 80,000円 企業等訪問費 2人 × 5社 × @2,000円 = 20,000円		
	【 教職員研修費 】	74,000	報告書作成 200部 × @300円 = 60,000円 通信運搬費 100社 × 2回 × @70円 = 14,000円		
※ 所要額内訳欄には、支給対象者、単価、回数、行先、印刷物の配布先、部数等を記載するなど、詳細に記載すること。					

Ⅱ－⑨ (2) 特色ある高校づくり推進事業

平成19年度「特色ある高校づくり推進事業」実施報告書

(その1)

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校
------	---	-----	----------

1 サポート事業名	① 学校設定教科・学校設定科目の実施のサポート			
2 事業の目標	「高度なものづくりへのチャレンジ」 3年間の学びを通して、各科の特性を生かした高度なものづくりを推進し、各種大会等へ参加し、全国レベルの技術と技能を身に付			
3 事業の内容	各科の技術力を結集し、総合的かつ学際的な研究に取り組む。 具体的なテーマとして 1) 機械科 省エネカーの開発、農業機械・建設機械の遠隔操作に係わる研究開発 2) 電気科 ホームセキュリティについての試作 3) 電子科 気球船制御の研究 4) 建築科 大工技能検定対策 5) 土木科 土木構造物（橋梁模型）の製作			
4 実施時期	研究成果を公表する。 （教員、保護者、生徒） 平成20年2月9日			
5 対象学年及び生徒	対象生徒：全学年・全生徒			
6 成果と課題	専門高校らしく、各学科の特色をだし生徒たちに専門教科に係わる高度な技術の一端を経験させることで、興味関心を引き出すことが出来たと思う。とくに各科のテーマが現代のいろんな問題とかかわっているだけに、有意義な一年であった。 今後の課題として、学科を超えて学校全体あるいは地域住民も参加するような大きなイベントを工業高校の特色を生かした形で模索していきたい。			
7 予算執行の内訳	費目	内 容	金 額	積 算
	報償費		35,000円	
	旅 費		15,000円	
	需用費		636,933円	
	合 計		686,933円	

平成19年度特色ある高校づくり推進事業評価票

1 事業内容は、次のどれですか。その内容を【 】内に記入して下さい。

- (1) 学校設定教科・学校設定科目の実施のサポート
【 高度なものづくりへのチャレンジ 】
- (2) 総合的な学習の時間の実施のサポート
【 】
- (3) 教科、特別活動等における体験的な活動実施のサポート
【 】
- (4) キャリア教育実施のサポート
【 】
- (5) 中学校との連携実施のサポート
【 】
- (6) 交流教育実施のサポート
【 】
- (7) 環境教育、国際理解教育実施のサポート
【 】
- (8) 地域との連携活動実施のサポート
【 】
- (9) 生徒の自主的な活動実施のサポート
【 】
- (10) その他の特色ある取り組み実施のサポート
【 】

2 事業について次の評価票に下記の基準により記入をお願いいたします。

評価の 基準	A 特に評価が高い 特にそう思う	B 評価が高い 概ねそう思う	C やや評価が低い 少しそう思う	D 評価が低い そうは思わない
-----------	---------------------	-------------------	---------------------	--------------------

評 価 項 目	評 価
1 この事業は、学校目標（めざす姿）を達成するのに役立っていると思いますか。	A (B) C D
2 事業計画は、管理職、教職員等の学校全体の意見、考えを反映した内容になっていますか。	A B (C) D
3 事業を通して学校の特色づくり、活性化に役立っていますか。	A (B) C D
4 この事業は教育課程の教科、特別活動等に位置付けられたものになっていると思いますか。	A B (C) D
5 事業の実施は、教職員全員で取り組んでいると思いますか。	A B C (D)
6 生徒は、この事業の趣旨を理解し積極的に取り組んでいましたか。	A (B) C D
7 この事業を通して、目的とする力を生徒に付けることが出来たと思いますか。	A (B) C D
8 この事業は、保護者に説明しましたか。	(した) (しない)
また、保護者はこの事業に協力的ですか。	A B (C) D
9 この事業は、継続して実施して行くべきだと思いますか。	A B C D
10 事業に対するアンケート、感想等から考えて、総合評価を行うと、どの段階だと考えますか。（生徒の側からの評価）	A (B) C D
11 各校で追加する項目があれば追加して評価して下さい。	A B C D

事業に関与した職員・生徒の人数

- 1) 事業に関与した職員数 / 全教職員数
(25 人 / 88 人)
- 2) 事業に参加した生徒数 / 全校生徒数
(792 人 / 792 人)

平成19年度「特色ある高校づくり育推進事業」実施報告書(まとめ)

学校番号	8	学校名	甲府工業高校
------	---	-----	--------

1 サポート事業名	①学校設定教科・学校設定科目の実施のサポート ②総合的な学習の時間の実施のサポート ③キャリア教育実施のサポート	
2 事業の目標	「ものづくり」、「進学」、「部活動」の各分野を全国レベルの工業高校を目指す「スーパー甲府工業構想」を推進し、生徒の自己実現をサポートする。 ①各年ごとに特別推進事業を掲げ3年計画で実施する。 1年目(平成19年度):高度なものづくりへのチャレンジ 2年目(平成20年度):「スーパー甲府工業構想」を実現するための学校設定科目の実施 3年目(平成21年度):学外との連携及び交流の推進 ②自己実現には将来を見通したキャリア教育が必須であり、3年間を通し推進する。 ③これからの工業には、「技術・技能」だけではなく、「芸術」との融合も視野に入れるべきである。3年間を通じ芸術に慣れ、その基礎となる人間性の涵養を図る。 1年目(平成19年度):日本の古典芸能の鑑賞 2年目(平成20年度):演劇の鑑賞 3年目(平成21年度):音楽の鑑賞	
3 事業の内容 対象学年及び生徒	①高度なものづくりへのチャレンジ 実施時期:通年 対象学年:各学科3年生 ②キャリア教育の推進 実施時期:通年 対象学年:1学年 ③日本の古典芸能の鑑賞 実施時期:平成19年6月26日(火) 対象学年:全学年・全生徒	
6 予算執行の内訳	報償費	45,000円
	旅 費	83,000円
	需用費 消耗品費 印刷製本費	636,933円 50,000円
	役務費 保険料等 通信費	20,210円 8,960円
	委託料	
	使用料及び賃借料	830,000円
	合 計	1,674,103円

Ⅱ－⑨ (3) 高校生インターンシップ推進事業

平成19年度「高校生インターンシップ推進事業」実施報告書

学校番号	8	学校名	甲府工業高等学校
------	---	-----	----------

1 サポート事業名	① キャリア教育実施のサポート			
2 事業の目標	3年間を通した体系的なキャリア教育を推進することにより、生徒の自己実現をサポートしていく。 特に本校の特性を生かし、早い時期（1年次）に、専門学科の仕事を経験することにより、ものづくりに対する興味・関心を高め、またより高度な内容の学習への取り組みが期待される。			
3 事業の内容	自己実現には将来を見通したキャリア教育が必須であり、1年次から3年次まで計画的に推進する。 (1) 1年次の「私の未来設計図（総合的学習の時間）」で外部講師による職業講話を実施し、働くことの意義を知る (2) 1年次の3学期にインターンシップを実施し、各科の特性にそった職業を経験することにより、これから専門的に学ぶ学科の特性を知り、深く学ぶための動機付けを行う。			
4 実施時期 および 対象学年	1) 職業人講話を聞く（総合的学習の時間） 実施時期 平成19年7月10日 対象学年 1年生 281人 2) インターンシップの実施 実施時期 平成19年 8月21日 平成19年12月11日 平成20年 3月12日 対象学年 1年生 52人			
5 成果と課題	生徒の職業観を育成し、卒業時の進路決定に役立てるキャリア教育を展開している。就労体験もその重要な一翼を担っている。生徒自らが地域産業を経験することにより、自らの進路を明確にし、学習意欲を高め、職業研究に対する意欲や地域の一員としての自覚を喚起し、さらに、必要な能力・態度を身につけ、望ましい勤労観・職業観を育むとともに、自らの社会性を高めてゆくことが出来たと思われる。 しかし、専門性を活かす企業でインターンシップを行うことが望ましいに限られた企業数しか協力が得られなかった。来年度は、学年全体で行うことが予定されているので、インターンシップ受け入れ企業の確保が課題となる。			
7 予算執行の内訳	費 目	内 容	金 額	積 算
	報償費			
	需用費			
	印本費			
	合 計			

平成19年度インターンシップ中間報告(2月)

甲府工業高等学校

進路指導部

1 受入事業所及び就業生徒数

受入事業所25社、就業体験者数52名(3月予定者を含む))

会 社 名	8月	12月	3月	合計
ヤマト運輸(株)関東支社	2			2
東京ガス(株)甲府支社		1		1
(株)松下製作所	1	2		3
(株)ササキ	4			4
トーヨーコーケン(株)		1		1
古河電工産業電線(株)甲府工場			1	1
(株)サンニチ印刷		2		2
(株)三工社 甲府工場		2		2
財団法人関東電気保安協会 山梨事業本部	2			2
(株)山梨文化会館	1			1
(株)甲府明電舎	3			3
芙蓉実業(株)	2			2
内外電機(株)山梨工場	3			3
(株)ササキ	4			4
(株)甲府共和電業	1			1
(株)メイコー	2			2
大新工業(株)	1			1
日東建設(株)		3		3
四谷建設(株)	2			2
日新測量(株)	1			1
(株)太陽設計	2			2
昭和建設工業株式会社		2		2
国際建設株式会社		2		2
井口工業株式会社		2		2
齋藤建設株式会社		3		3
合 計	31	20	1	52

科別就業体験者数

電気科 26名(3月就業者を含む)

電子科 8名

建築科 9名

土木科 9名

合 計 52名

Ⅱ－⑨ (4)サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

様式1-4-1(1/2)

平成19年度サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト

講座型学習活動プラン初A 実施報告書

整 理 番 号	講初学1003	※本報告書はそのままホームページに掲載いたします。個人情報等を記載する際には、ご注意ください。	
実 施 機 関 名	山梨県立甲府工業高等学校		
所 在 地 住 所	〒400-0026 山梨県甲府市塩部2-7-1		
電 話 ・ FAX 番 号	Tel: 055-252-4896	Fax: 055-251-3385	
連 絡 先 担 当 者	所属・役職: 電子科 教諭		
所 属 ・ 氏 名	氏名: 楠 秀樹	(平成19年12月19日現在)	
講 座 名	IT技術者育成のための組み込み型ロボットの研究		
受講者について	1 受講者数: 計47名 (男42名、女5名) ※1つの企画の中に複数の活動がある場合、重複して参加した者は「1名」としてカウントしてください。 2 受講者決定方法: ※いずれかに○ ☒ (1) 原則として、下記3に示す受講対象者全員を参加させた。 (2) 下記3に示すの受講対象者の中から希望者を募って参加させた。 (3) その他 () 3 受講対象者: ※いずれかに○ (1) 全校生徒を対象とした。 (2) 学年を対象とした。 → いずれかに○ ア 1つの学年全体 イ 複数学年 ☒ (3) クラスを対象とした。 → いずれかに○ ア 1つのクラス全体 ☒ 複数クラス (4) 学科等(例: 理数科、普通科)を対象とした。 → 参加した学科等 () (5) 理数系クラブに所属する者を対象とした。 (6) その他 () 4 受講形態: ※いずれかに○ ☒ (1) 1つのテーマを受講者全員が参加 (2) 実施された複数テーマの活動の全てに受講者全員が参加 (3) 複数テーマを分散的・同時並行的に実施し、受講者は希望のテーマに参加 (4) その他 () 5 教育活動の位置づけ: ※いずれかに○ ア 通常の授業時間に実施 ☒ 課外活動として実施 → アの場合、科目名(例: 総合学習、生物) ()		
連携先との連携のきっかけ	※連携先をどのように見つけたか、どのようなきっかけで、また、どのような意図で連携することになったか等について記載ください。		
神奈川工科大学の金井教授は出前授業で組み込み型システム技術者を育成する必要性を強く主張されており、高校生に実践的な力をつけさせようとする高校側の意図と一致した。ここ数年間、神奈川工科大学とは大学主催のロボコンに本校生徒が参加したり、金井教授に出前授業に来ていただいている関係である。			

Ⅱ－⑨ (5)国語力向上実践事業

平成19年度 国語力向上実践事業報告書

平成20年 2月13日

学校名	甲府工業高等学校	校長名	戸田 泰明	担当者名	細田 智彦
-----	----------	-----	-------	------	-------

1	事業の名称	適切に表現する能力を養う指導				
2	事業の具体的目標	国語力の中の「話すこと」という分野は、高校の国語科の授業では、なかなか指導が難しい。しかし、就職試験や進学試験で、面接試験やプレゼンテーション試験などが数多く実施されている。いかに適切に、また効果的に第三者に自分の主張を伝えることが出来るかということを目指とする。				
3	事業の内容	放送局のアナウンサーを講師とし、「話し方・聞き方の基本」の講義をしてもらう。「発声の方法」・「話す際の効果的な表情・姿勢・視線」・「わかりやすく話す方法」・「正しい敬語の使い方」・「どのような言葉を選ぶか」・「良い聞き方」等をテーマにした。				
4	実施時期	平成19年 7月 13日	実施場所	甲府工業高校 視聴覚室	参加人数	3年 253名
5	決算の内訳	科目	費目	金額(円)	積算の基礎	費目の具体例
		報償費	講師謝金 1人	20,000円		
		旅費				
		需用費	消耗品費			
			印刷製本費			
		合計		20,000円		
		備考				
6	成果と課題	本校の生徒は、進路関係で企業の人事関係者・大学の事務局の方・専門学校の講師の方との接触は他の学校と同じくらいおと思うが、今回のようにそれ以外社会人との交流はほとんどないので、今回は生徒にとって大きな刺激になったと思います。 予算が十分であれば、複数のアナウンサーを講師とし全校生徒を対象とした大きな企画も考えられると思います。 また、これら以外にも漢字検定など各種試験などへの自主的参加を奨励するような校内の環境を整えていくことも重要である。				
7	その他					

Ⅱ－⑨ (6)ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業

ものづくり人材育成のための専門高校・地域産業連携事業

(クラフトマン21)への取り組み

山梨県立甲府工業高等学校

はじめに

この事業は、ものづくりに関わる高校と地元企業および行政が連携して、若い工業人を育成するための教育プログラムを開発し、また教育・行政・企業の連携の在り方などを検討・実施し、地域活性化のための標準モデルを構築するという位置づけを持っている。以下に、本年の実施状況、平成20年度の実施計画について報告する。

本年度は、事業採択の可否及び予算執行等の遅れにより、事業開始時期が10月末からとなり、実質的には僅か5ヶ月という時間的制約のなかで、本校では本事業の骨子となる4つの取り組み全てについて計画、実践した。

まず、生徒の企業実習は、基礎・基本の学習が中心となる学校教育では得がたい分野に関する先端的、実践的な技術・技能の習得をねらいとして実習テーマを編成、連携企業8社との調整を図りながら実習を展開した。内容は、精密機器、光学・OA機器、半導体製造装置などの製造技術である機械加工、金属熱処理、そしてCAD製図など、教育プログラムに沿って実施することができた。

次に、企業技術者等による学校での実践的指導では、企業の高度熟練技術者を3級技能検定実技講習の指導者として、また二足歩行ロボットの実技指導者として招き、機械加工や組み立てなどの実技指導講習を実施した。

教員の高度技術習得については、機械科職員は、企業現場で、実際使われている設備、防具等をお借りして、特殊技能を必要とするステンレス溶接にチャレンジした。また、他の4学科の教員も、それぞれの分野における特殊技術習得に取り組み、実に、工業科教員の約7割近くが受講した。

最後に、企業との共同研究では、研究対象機器をトラクターや小型パワーショベルとし、自走又は遠隔操作走行システムなどの研究にも取り組んだ。

1 本事業における取組等

(1) 研究のねらい等

これまで、本校独自の教育課程において学習意欲の向上を図り、主体的に学ぶ生徒の育成に努めながら、公共機関や地元企業と連携して職業意識形成のための諸活動を実践してきた。本研究においては、これまでの指導の流れを継承しながらも、従来の学校と企業の関係（学校は人材を育成し、企業は生徒を採用する）から一歩踏み込み、学校と企業そして地域産業に関わるすべての公共機関が連携し、有意な人材育成のための企業による学校への支援の在り方について検討し、具体的な職業教育プログラムの開発や教員の技術向上の取組みを実践するによって、地域産業の期待に答えられる人材を育て上げ、地域社会経済の発展に寄与、貢献することを目的とする。

(2) 実施計画

第1学年

	企業内研修	外部講師による校内研修
対象学科	機械科	機械科
対象生徒数	全員（80名）	全員（80名）
実施時期及び期間	3学期（各パート10名ずつ8グループ） 8日間	10月 2日間
教育課程上の位置付け	工業技術基礎 旋盤・溶接・鋳造・アッセンブリ	総合的な学習の時間 職業講話
協力企業	製造業（8社）	製造業（2社）
実施場所	上記企業	学校
講師	企業技術者	
設備・機器		視聴覚機器

実習材料		
目的・ねらい	企業見学を通じて企業の実践的技術に触れることにより、専門高校生として、ものづくりを支える職業人の育成を行う。	職業講話を実施することによりものづくり現場の高い技術力と技術の継承が専門高校生に求められていることを知る。

第2学年

	外部講師による校内研修	
対象学科	機械科	
対象生徒数	20名	80名
実施時期及び期間	2学期 3日間	3学期 8日間
教育課程上の位置付け	機械実習	
協力企業	製造業(2社)	製造業(1社)
実施場所	学 校	
講師	普通旋盤3級指導者	CAD指導者
設備・機器	普通旋盤	CAD用パソコン
実習材料	S45C・Φ60×4m・1本	
目的・ねらい	企業の求める人材として技能検定の合格者が上げられている。機械加工普通旋盤3級の合格を目出すための講習会を実施し実践的技術力をつけさせる。	

第3学年

	外部講師による校内研修		
対象学科	機械科		
対象生徒数	30名	10名	
実施時期及び期間	1～2学期 6日間	2学期 8日間	
教育課程上の位置付け	機械実習		
協力企業	製造業（3社）	製造業(1社)	
実施場所	上記企業	学校	
講師	普通旋盤3級指導者、 金属熱処理3級指導者 機械検査3級指導者 等	CAD指導者	
設備・機器		普通旋盤・熱処理・ 検査機器	CAD用パソコン
実習材料		S45C・Φ60× 4m・1本 鋼材・測定加工材料	
3校の共通履修	機械科10名 6月～7月 10日間 二足歩行ロボット製作実習		
目的・ねらい	企業の求める人材として技能検定の合格者が上げられている。金属熱処理3級・機械検査3級の合格を目指すための講習会を実施し実践的技術力をつけさせる。また、ロボット製作を通じ基本知識を学ぶ。		

教員の企業内研修

教員の企業での高度技術習得	授業に関わる内容	溶接技能 2回、2名
	資格取得に関わる内容	機械加工（旋盤・フライス盤） 2回、2名

その他の取組み

小中学校生徒を対象としたものづくり教育	夏休み親子ものづくり教室 2回×30名	小中学校
---------------------	------------------------	------

(3) 校内における事業推進体制

◎実施方針

本校の教育課程の内容を充実・補完する内容であり、

- ① 実施に当たり無理なく円滑に行われ、事業終了後も継続して実施可能であること。
 - ② 生徒が意欲的に取り組み、喜びと満足、そして自信が得られるものであること。
 - ③ 取り組んだ結果が具体的に見え、進路の実現に寄与するものであること。
- を考慮して実施に当たるものとする。

◎推進体制

kraftman 21 推進	委員長	校長	戸田 泰明	総括責任者
同	副委員長	教頭	加賀美 史朗	指導助言
同	副委員長	教頭	手塚 芳一	指導助言
同	副委員長	教頭（定時）	小田切 静男	指導助言
同	副委員長	事務長	佐野 武治	指導助言
同	事務局長	機械科主任	長田 宇	企画立案実施連絡調整
同	副事務局長	進路指導主任	中沢 稔	企画立案実施
同	委員	総務主任	時田 透	
同	委員	教務主任	杓間 正	
同	委員	機械科主任（定時）	長田 英治	
同	委員	電気科主任	望月 裕	
同	委員	電子科主任	大野 政彦	
同	委員	建築科主任	浅川 俊夫	
同	委員	土木科主任	志村 利治	
同	委員	1学年主任	河野 公昭	
同	委員	2学年主任	沢登 美接	
同	委員	3学年主任	飯島 清二	

(4) 実施状況

平成19年度事業報告

【別添資料】

おわりに

(1) 実施にあたって

この事業は、行政、企業、学校の三者が協力しながら実施するものとされているが、生徒に直接関わる学校の取り組みが成否を分けることになる。本年度は、事業の目標に大きく関わる機械科が主体となり事業をすすめてきたが、生徒の指導や掌握など学年及び科内、科相互の連携が欠かせない。また、この事業が基本的に教育課程の中に位置付けられているので、授業内容との整合性や、授業時間の確保、学習内容の精選や学習指導の方法や評価などを新たに見直さなければならない。特に本年度は準備の時間もなく事業の立ち上げに関わる多くの業務に忙殺された。実施計画書の試案策定作業から始まり、校内の推進体制の構築、事業内容や日程の検討、協力企業の発掘、事業の説明や依頼、企業研修や講師派遣の連絡調整や打合せなどの他、当日の講師の受入や会場の手配や準備、生徒への事前・事後の指導や見学時の引率、研修や見学時の指導用資料の作成、企業実習時の企業訪問、保護者への理解と協力依頼、各種業務に関わる諸文書の作成や印刷、配布、郵送、アンケート内容の検討及び作成、実施、回収、データ整理、写真やDVDによる記録、その整理、バスの手配、などの業務があった。また、当事業の実行委員会への出席、計画書および予算書、報告書の作成、他の関係機関との連絡調整や打合せなどがあり、授業や授業準備、校務分掌業務の空き時間を利用しておこなった。

(2) 本年度の取り組みを振り返って

この事業については、平成18年6月に経済産業省から事業案の紹介があり、それを受けて他県では申請に向けて準備を進めていたそうだが、私達がこのことについて知らされたのは年が明けた2月下旬であった。そのため実施計画の策定に要する準備期間がほとんどなく大変苦労した。しかも当初、5月の採択の可否が6月にずれ込み、さらに予算執行が10月末からということで、2、3年のほとんどの事業は実施できなかった。

そうしたなかで、1・2学年の科目領域に関わる企業の見学、および当該企業担当者による講義、2学年の企業実習の取組は、地元企業の積極的なご支援ご協力を得て無事に終了することができ、企業の皆様方には厚く感謝を申し上げたい。また、資格取得への取組みの一環として新たに最新の大型精密旋盤を1台導入することができたので、生徒の技術・技能の向上に活かしてゆきたい。

こうした取組みの成果が直ぐに具体的な形で出てくるものではないが、アンケートの結果や感想文を見る限り、これらの取組みが、生徒のものづくりに関わることへの意識やさらなる意欲の向上につながっていることが伺える。今後ともこの事業をますます充実発展させ、ものづくりをとおして自己を成長させるとともに、自己実現を図り、ひいてはものづくりをとおして地域社会に貢献できる工業技術者の育成につとめてゆきたい。

平成20年度 クラフトマン21事業計画

甲府工業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年									12月1日(木) 9:00~15:30 3社:見学 企業:80名			
2年 1組		5月22日(木) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名	6月19日(木) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名			9月4日(木) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名	10月23日(木) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名					
2年 2組		5月19日(月) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名	6月23日(月) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名				10月18日(月) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名	11月10日(月) 12:40~15:30 4社:企業実習 企業:20名				
3年 1組		5月15日(月) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名	6月4日(月) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名			9月8日(月) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名						
3年 2組		5月6日(火) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名	6月3日(火) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名			9月9日(火) 9:10~12:00 4社:企業実習 企業:20名						
電気 3年 1組				5月下旬~12月上旬 木曜:午前 15回(週) 12:40~15:30 3社:企業実習 5名								
電気 3年 2組				5月下旬~12月上旬 金曜:午前 15回(週) 12:40~15:30 3社:企業実習 5名								
1年				7月12日(水) 12:40~13:30 1社:講義 視聴覚室:80名								
2年 1組				7月 AUTOCAD講習 1社:講義 10名								
2年 2組				7月 AUTOCAD講習 1社:講義 10名								
3年 1組		5月 CAD-CATIA講習 1社:講義 10名	6月 旋盤3級講習 1社:講義 6名	7月 新設備・機械73台講習 1社:講義 10名				11月 機械検査講習 1社:講義 10名				
3年 2組		5月 CAD-CATIA講習 1社:講義 10名	6月 旋盤3級講習 1社:講義 6名	7月 新設備・機械73台講習 1社:講義 10名				11月 機械検査講習 1社:講義 10名				
電気 3年 1組	4月24日(木) 9:10~12:00 1社:講義 5名	5月8日(木) 9:10~12:00 1社:講義 5名										
電気 3年 2組	4月25日(金) 9:10~12:00 1社:講義 5名	5月9日(金) 9:10~12:00 1社:講義 5名										
共通研修 二足歩行 ロボット	課題研究:3年 月:火:午前中 5名	課題研究:3年 月:火:午前中 5名						課題研究:3年 月:火:午前中 5名	課題研究:3年 月:火:午前中 5名	課題研究:3年 月:火:午前中 5名	課題研究:3年 月:火:午前中 5名	課題研究:3年 月:火:午前中 5名
共同研究 トラクター	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後	課題研究:3年 月:火:午前中 機械技術部 放課後
伊風の企業研修					8月7日(木) 池袋研修 教員:15名							3月 放課後 教員:15名

